



114
A 114
5



第十七篇

公債ノ事ニ関スル謬説及ヒ公債ノ結果ヲ論ス

第一章

公債ノ事ニ関スル謬説ノ批評

前篇ニ於テ既ニ開陳セシ公債論ヲシテ尚ホ一層明瞭ナラシム
ルカ為メニ此危害ナル手段公債ヲ以テ公費ヲ補フ真正ノモノ
ト為サンカ為メニ論者ノ曾テ主張セル種々ノ謬説ヲ左ニ揭示
シ俛セテ之レヲ批評セントス

第一 十七百年代ニ於テハ人皆公債ハ其金額ニ從ツテ社會
ノ富ヲ増殖スルモノナリト確信シタリ方今ト雖片尚ホ然リ
若シ其金額ハ尋常一般ノ如ク無益ノ事ニ支消セラレハ片ハ縱
令其債主ハ常ニ其利子ヲ得ルモ此利子ヲ支給スル者ハ即チ納
税者ナレハ到底此金額ニ從ツテ社會ノ富ハ減少セルモノト謂

大正十一年四月
大隈侯爵印
贈月

ハサルヘカラス

第二 經濟上ノ論題ヲ明解スヘキ知識ヲ具セサルウボルテ
此氏ハ若シ政府ニテ内國人ニノ公債ヲ募ルキハ該國ハ
決シテ衰微スルコナク反テ其公債ハ諸業ヲ勸勵スルモノト
成ルベシト思考セリ

又是ヨリ先キムロ^ン氏ノ言ルコアリ曰ク政府ハ其公債ニ
因テ該國ヲ衰微セシムルコナキモノナリ何トナレハ其利子
ハ右手ヲ以テ之レヲ收入シ左手ヲ以テ之レヲ支給スルヲ以
テナリト

此喻言ハ元ト誤リタルモノト云フヘシ何トナレハ彼ノ右手ヲ
以テ收入スル所ノモノハ即チ物産者等ノ如キ納稅者ノ納ムル
所ノモノニシテ之レヲ屢無益ニ支消シタル公債ノ利子トシテ
甚々異ナリタル他ノ人債主ニ支給スルモノナレバナリ

蓋^シムロ^ン氏ノ此^レ誤議ハ充分一誤謬ニ属スルモノト英^ニ巨^大
ノ公費ハ商業ヲ盛^ンナラシメ又租稅ハ諸般ノ放^カ銀^利ヲ得ル^ル為^ニ
モ^ノ入^レ置^ク中ニテ最モ利益ヲルモノト為スノ論者ハ大^ニ
廻^テ護^スル所アルヘシ此論者ハ政府ノ公債ヲ募ルハ之レヲ支消
セ^ンカ^ク為^メニシテ之レヲ支消スレハ則チ商業ハ繁昌スヘシト
妄^リニ想像スルヲ以テナリ然レモ若シ之レヲ支消スルニ當リ
之レニ相當スル利益ノ生セサルハ該國何ソ幾分カ疲弊セサ
ルヲ得ンヤ假令相當ノ利益アリテ其負債ヲ償却シ得ルニ至ル
モ只其負債ヲ消却スルニ過キサルヘシ然ラハ則チウボルテ
此氏ノ所見モ亦タ誤レルモノト云ハサルヘカラス何トナレハ
氏ハ政府ハ内國人ヨリ公債ヲ募ルニ於テハ該國ハ決シテ疲弊
セサルモノナリト思考セシヲ以テナリ
又公債ノ利子トシテ佛國ノ如キハ殆^ント六億^ブラ^ク英國ノ

如キハ七億^トフランク余ヲ毎歲要スル^ト際ニ於テハ其母金ハ殆
ト消却セ^テ以テ此母金ヨリ生スル利益ハ他ニ移轉シ又納
稅者ノ所有セル財本ヨリ生スル利益ノ内ヲ以テ此消却シタル
母金ヲ貸与セシ者ニ支給スル所ノ租稅ヲ成立スヘシ是ヲ以テ
之レヲ觀レハ消却シタル財本ノ為メニ社会ノ缺乏ヲ生シ又各
自ノ利益内ヨリ債主ニ支給スヘキ租稅ノ為メニハ各自ノ缺乏
ヲ生スヘキナリ故ニ佛國及ヒ英國ニ於テハ往時斯クノ如ク六
七億フランクノ利子ヲ年々支給シ出ダサ、リシ片ヨリモ方今
ハ實ニ一層貧困ナリト云ハサルヘカラス

政府ノ公債ヲ以テ諸業ヲ勸勵スル^トニ付テハ却テ人民ハ政府
ノ之レヲ舉行スルヨリモ費用ノ小ナル便利ノ大ナル良法ヲ以
テ之レヲ舉行シ得ルヤ否又英國及ヒ佛國ノ債主カ毎歲七億及
ヒ六億フランクヲ其政府ヨリ領收シテ之レヲ諸業ノ為メニ使

用ルルヨリモ之レヲ支給スル所ノ納稅者ハ尚ホ一層巧シニ之
レヲ使用シ得ルヤ否ハ今此ニ論究スヘキ^トニアラサルナリ

第三 ^コンドルセ[」]氏ハウ[」]ボルテ[」]ル[」]氏ノ説ヲ駁撃スルト

虽氏尚ホ公債ハ外國ヨリ之レヲ募集スルニ於テハ一層惡シ
キ結果ヲ来タスヘキモノナリト闡陳シタリ

是レモ亦々誤解ト云フヘキナリ抑公債ノ害タルヤ只財本ヲ支
消スルノ一事ヨリ發生スルモノナレハナリ

又外國へ支給スヘキ公債ノ利子ハ利益ヲ生スル財本ノ利益ヨ
リ出ルニ非スヤ又愛國ノ情^情ヲ以テ之レヲ見ル片ハ政府ノ公債
ヲ募ルニ當リテヤ内國人ノ之レヲ供給スルニ若カストナスニ
是レ唯内國人ノ其政府ニ貸与シ得ヘキ^カヲ有セル時ノミニ
行ハル、事ナリ

第四 [」]ニフレ[」]ヌ[」]ヌ[」]レ[」]ラン[」]氏ノ言ヘル[」]アリ曰ク政府

ハ公債ヲ募リテ以テ世間ニ流通スル財本ヲ一時奪フト雖凡
常ニ忽テ之レヲ返還シテ復タ之レヲ融通セシムルモノナリ
何トナレハ政府ノ之レヲ募集スルハ之レヲ支出センカ為メ
ナレバナリト

是レ政治家ノ一般ニ唱フル所ノ謬説ナリ蓋シ政府ハ斯ノ如ク
一時財本ヲ奪ヒ而シテ復タ直チニ之レヲ融通セシムルモノト
虽凡決シテ之レヲ返還セサルモノナリ政府ノ此財本ヲ以テ物
品ヲ買フハ之レヲ返還スルニ非ス之レト交換スルナリ

第五 或曰ク公債ハ人民ノ貯蓄ヲ奨励シ又其貯金ヲ一層多
ク利益アル事業ニ之レヲ用ヰルヘキ機會ノ至ルマテ先ツ之
レヲ容易ニ預ケ置クノ道ヲ開キ以テ財本ノ増殖ヲ保助スル
モノナリト

確實ナル銀行ハ能ク此旨趣ヲ達セシムルナリ

若シ公債ノ人民ノ蓄財ヲ奨励スルモ是レ甚タ疑ハシキナリ
蓄ニ多ク財ヲ羸シ得ルノミナラス諸事ニ用ヒ得ヘキ人ノ蓄財
ノミヲ奨励スルモノナリ然リ而シテ若シ斯クノ如キ際ニ至ル
ハ公債ハ農工商ノ諸業ニ用ヰルヘキ財本ヲ奪ヒ以テ萬事ヲ
妨害スルニ至ルヘキモノナリト云フコトニ着目セサル可ラス又
公債ハ蓄財ノ為メニハ金庫ノ詐用ヲ為シテ債主ノ其財本ヲ要
スルハニ當リ直チニ之レヲ返還シ而シテ一層利益アル事業ニ
之レヲ使用スルト言フト虽凡決シテ然ラサルモノナリ何トナ
レハ政府ハ既ニ此財本ヲ支消セシテ以テ之レヲ還償スルヲ得
ス或ハ又此債主ノ他人ニ其貸金(公債証書)ヲ賣却スルモ之レヲ
購求セル人ハ猶其財本ヲ政府へ貸與スルヲ以テ唯先ノ債主ニ
代リタルノミナリ

第六 公債ハ蓄財ヲ奨励スルノ功能上ノ如ク疑ハシキモノ

ト虽氏ヲ有スルノミナラス尚ホ財主ノ為メニ其財本ヲ暫時
預ケ置クノ便利ヲ容易ニ生セシメ更ラニ之レニ因リテ自ラ
其融通ヲ容易ナラシムルモノトナシ以テ大イニ之レヲ保庇
スル人アリ

實ニ會社等ノ株券及ヒ容易ニ交換シ得ヘキ其他ノ証券等ハ公
債証券ノ如キ便利ヲ生シ又之レト等シク財本ノ融通ヲ容易ナ
ラシムルモノト虽氏又之レト等シキ妨碍ヲ生セサルモノナリ
試ニ二者ヨ世ニ公債証券ヲ除クノ外ニ一ノ賣買シ得ヘキ証券
ノ成立セサルモノト假定スルモ尚ホ公債証券ノ妨碍ハ之レカ
財本ニ授クルノ便利ト商會公債証券等ノ賣買ヲ為ス所ニ得セシムル利益ト
ニ因ツテ贖ハル、モノトナスハ甚々疑ハシキナリ蓋シ斯ノ
如キモノ、賣買ハ國ノ生財ニ関スル勤勞ノ為メニ要スルニ非
サレハ敢テ希望スヘキ事ニ非ス又其賣買ハ真ニ實物ニ係ル

非サレハ良善ノモノニ非サルヘシ然レモ又實物ニ関スル時ニ
於テスラ尚ホ只一時ノ計策ニシテ決シテ生財ノ目的ニハ非サ
ルナリ都テ財本ノ融通ハ諸般ノ運轉ト等シク必ス有益ノ結果
ヲ生セサル可ラス否サレハ之レヲ融通セシムルハ無益ノ勞カ
ト云フヘキナリ

第七 又或曰ク公債ハ財主ノ為メニ其財本ヲ用ヰルノ道ヲ
開キ以テ彼等ヲシテ之レヲ外國ニ輸送スルニ至ラシメサル
モノナリト

然リト虽氏之レヲ政府ニ貸與スルヨリモ一層利益アル他ノ用
法ハ許多アルニアラスヤ加之財本ノ外國ニ轉徙スルモ其利益
ハ本國ニ復歸シ且ツ其証券ヲ賣却スレハ忽チ之レヲ返還シ得
ヘキナリ
爰ニ予輩ハ各人ニ對シ一言スヘキナリ國ノ全体ニ就テ觀察

スル片ハ産物ノ形態ニテ轉出^轉ハル財本ハ復々他ノ産物ノ轉入^轉ニ因ツテ補充ナルハモノナリト云フ^ト即チ是レナリ蓋シ是レ決^決シテ忘却スヘカラサル一要事タリ

第八 又曰ク公債ハ利子ヲ得ル人ヲ増加シ而シテ彼等ヲシテ諸業ヲ獎勵セシムルモノナリト

之レニ答フルニハ多言ヲ費サスレテ足ルヘシ曰ク彼等ノ員數増加スレハ納稅者ノ費ス所從ツテ大イナリ

第九 ガニール氏ノ如ク英國ノ繁榮ヲ其公債ニ歸セシムルノ人アリ

然リト雖^然ガニール氏ハ英國ハ公債ヲ募集スル間々繁榮ヲ致シタリト言フト虽^然英國ハ公債ヲ募集セシカ為メニ繁榮ヲ致シタリトハ証明セサルナリ今萬事ニ就テ能ク之レヲ視察スル片ハ縱令英國ハ公債ヲ募リシト雖^然繁榮ヲ致シタリト認了セ

サレ可ラス然レ氏予輩ハ此事ニ就キテ左ノ如ク敢言シタリ曰ク若シ英國ハ此巨額ノ財本ヲ浪費ニ供セスレテ之レヲ生財ノ事業ニ供センナラハ豈其繁榮ハ一層盛大ナラサランヤ

第十 又或ハ公債ハ大砲ノ如クニシテ若シ彼ノ國民ノ之レヲ用井ル片ハ此ノ國民モ亦々之レヲ用井サレハ危難ヲ避ク

ル^ル能ハサルモノナリト云ヒ以テ財主ノ愛國心即チ財主ノ政府ヘ財本ヲ貸与スル^ルヲ煽動シタリ

然レ氏斯クノ如キ人ハ自ラ以^レ喻言ヲ作為シ之レヲ至當ノモノト做スモ必スシモ又公債ヲ募ル^ルヲ得ヘキ最良ノ情形^{コト}ハ曾テ

之レヲ募ラサルニアリト云ハント欲スルナラン

故ニ若シ公債ヲ募集セサルヲ得サル片ニ之レヲ募集シ得ルハ曾テ政府ノ遠度ニ之レヲ募集セシ^ルナリ又國安ヲ能ク保存セ

ル時ニ非サレハ能ハサル^ルナリ實ニ財主ハ政府ヘ貸與セン

カ為メニ成之セル一種ノ官吏ノ如キモノニ非ス苟クモ危急困
難ナル情勢リテ外敵ノ勢力強盛ナル片ハ忽チ其財本ヲ外敵
ニ移スモノナリ若シ本國ノ之レヲ抑制セント欲スル片ハ格外
ノ利益ヲ附與スルニ非サレハ能ハサルヘシ抑財主ハ今發起セ
ル戦争等ノ事ニ就キテハ嚮キニ親ラ大ニ其開戦ヲ首唱スル所
ト雖モ其レ尚ホ斯クノ如ク無情ノモノナリ
又財主ハ事理ノ正シキモノニハ必ラス應援スルモノニ非サル
トハ從來ノ經驗ニ因テ明証シ得ヘキモノナリ財主ノ應援スル
ハ只安全ノモノト認ムル所ニアルノミ今其通例ヲ左ニ示サン
千七百七十六年英國ノ合衆國ニ施行セントスル不正ノ專賣ヲ
保持センカ為メニ要スル財本ハ充分ニ募集シ得タルモ合衆國
ノ其獨立ヲ全フセンカ為メニ要セル財本ハ募集シ得サリレナ
リ又千八百年代ノ初メニ當リ佛國ノ歐羅巴全國ト戦闘センカ

為メニ要スル財本ハ募集シ得サリレカ其勝者ニ支給スヘキ償
金ノ為メニ要スル財本ハ甚タ容易ニ募集シ得タリト云ヘリ
ジャックラフット氏言ヘルコアリ曰ク英國政府ハ五十年間ニ貳
百億ノ巨額ヲ募集シ得タルハ該政府カ明カニ闔國ニ関スル戦
争ニシテ即チ其國民ノ高業ヲ盛大ナラシムルカ或ハ其權利ヲ
伸張セシムルカ如キ事ニ関セル戦争ヲ為サリシニ因ルヘシ
ト然レモ予輩ハ右ノ經驗ニ因テ之レヲ考フルニ凡ソ政府ノ思
想カ財主ノ思想ト等シキ片ハ彼等ハ自然ニ政府ニ應援スルニ
至ルモノナリ故ニ英國ノ舉行セシ事業不正ナルニ因リテ財主
ノ之レニ應援シタルニ非サルヘシ又或ハウハテロロニ於テ
勝敗ヲ決セシ彼ノ痛哭スヘキ戦争ニ際シ財主悉ク英國人ニハ
アラスノ愛國心即チ英國政府ヘ其財本ヲ深カリシテ甚タ
稱讚セリ然レモ是レ敢テ稱讚ヘキ事ニテラサルナリ蓋シ其

財主中ニハ其ハ真ノ愛國ノ情ヨリテ之レヲ貸與セシモノナ
キニアラス。虽凡其強半ハ英國ノ情勢ハ佛國ノ情勢ヨリ一層
強盛ニシテ其全勝ヲ信スルノ厚キヲ以テ之レニ貸與スレハ危
險ノ患ナシト想像セレカ故ニ悉皆之ニ貸与セシモノナレハナ
リ

第二章

公債ノ結果

予輩ハ前章ニ於テ既ニ公債ノ事ニ関セル謬説ヲ批評シ併セテ
種々ノ所見ヲ以テ公債ノ結果ヲ詳説シタリ蓋シ公債ノ事ヲ細
論スルニ當リテヤ復々租税ノ結果ニ就キテ既ニ論述セシ所第
九篇ノ第二章ヲ見ルヘシニ着目セサル可ラス何トナレハ總テ
公債ハ到底租税ヲ増加セシムルニ至ルヘキモノナレハナリ抑
公債ノ事ニ就キテ論セント欲スル所ハ既ニ悉ク陳述スト虽凡

尚ホ今此事ニ就テ説キ示スヘキモノ若干件アリ即チ左ニ之レ
ヲ開陳セントス

夫レ公債ノ事タルヤ經濟學ノ主トシテ論スヘキモノト雖凡今
日ニ至ルマテ此事ニ就キテ人ノ論シ来リタル所ノ考説ハ概レ
テ會計及ヒ政治上ニ関スルモノニシテ自ラ其為ノニスル所ヲ
リテ論セシモノニテ真正ノモノニアラサルナリ是レニ由テ衆
人ヲシテ其確實真正ナル説ヲ保持セシムルニハ尚ホ居多ノ謬
説ヲ論破セサルヘカラス

都テ官吏ハ常ニ公債ノ事ニ就キ其利害得失ヲ鞅リ了解セント
欲スル者ノ主管タルニアラサルナリ故ニ屢々納税者ノ財貨ヲ浪
リニ費シ以テ頗ル賢明ノモノト自カラ信シ且ツ之レカ為メニ
衆人ノ感謝ヲ受クヘキ充分ノ條理ヲ有スルモノト妄リニ想像
シテ大ニ得意ノ色ヲ顯スルアリ豈慨歎ノ至リナラスヤ

又公論者ハ「梳子皆正理」經濟及「輕稅ヲ説キ且公債ノ危害ヲ示ス所」^{「シュリ」}「カボイバン」^{「ボア」}「ギョイベル」^{「ケス」}「子」^{「ユル」}「ウベル」^{「ヒ」}「ム」^{「ケニル」}「ゴ」^{「ジベセ」}「リカルト」^{「フロレー」}「エストラダ」^{「及」}「其他ノ經濟家ノ明論ヲ熟考セサルモノナリ」
嘗ツテ「ケス子」氏ノ言ル「フ」リ曰ク政府ハ公債ヲ擲棄セサル可ラス何トナレハ公債ハ毎年政府ノ支給スヘキ利子ヲ生シ而シテ政府ヲシテ堪ヘ難キ負債ヲ擔ハシムルニ至ルモノナレハナリ加之此公債ヲ組成スル財本ハ其金額ニ從ツテ農業ノ為メニ使用スヘキ財本ヲ缺乏セシムルモノナリト又曰ク政府ノ定額外ニ財本ヲ要スルハ國ノ繁榮ノ致ス所ナレハ希望スヘシト
虽氏公債ノ致ス所ナレハ決シテ希望スヘカラサル「ナリ」何トナレハ貨幣ハ苟モ其國ノ財政宜キヲ得サルハ其王モ其國モ顧ヤスレテ忽チ陰カニ他ニ移轉スルモノナレハナリト

「フロレー」エストラダ「氏」ハ其著述中ニ左ノ如ク公債ノ提起スル危害ヲ撮畧シテ擧ケタリ
公債ハ國民及ヒ其政府ヲシテ財本ヲ浪費セシムル「ニ」誘導スルモノナリ
公債ハ現在ノ政府ヲシテ将来ノ政府ノ財本ヲ費耗セシムルモノナリ
公債ハ不正ノ戦争ヲ發生セシメ現存セルモノヲ破毀シ以テ更ラニ一層盛大養麗ナルモノヲ建造スル「ト」ヲ獎勵シ「予」輩ハ上ニ之ヲ論述シタリ及ヒ暴政ヲ堅固ナラシムル「ト」ヲ援助スルモノナリ
公債ハ富者ノ歳入ヲシテ「免」カレシメ以テ納稅者ノ員數ヲ減サスルモノナリ「方」今ノ租稅設立方法ニ於テハ斯クノ如シ
公債ハ「毎」年ニ財本ヲ活用セサル財主「投機者」ノ員數ヲ増加シ

而シテ海^外ニ財本ヲ活用スル財主^{起業者}ノ員數ヲ減少スル
モノナリ
公債ハ商會(公債証書等ヲ賣買スル所)ニ於テ經紀スル財本ノ
價額ニ從ツテ農工ノ諸業ヨリ財本ヲ收奪スルモノナリ
公債ハ右ノ如ク危業^{投機}ヲ盛大ナラシムルモノナルカ故ニ
自ラ人ノ勤勞ト節儉ノ情意ヲ消滅シ而シテ有用ナル工人ヲ
シテ工業上ニ缺乏セシムルモノナリ
公債ハ此レニ由テ國ノ物産ヲ騰貴シ隨ツテ其輸出及ヒ財本
ノ融通ヲ妨害スルモノナリ
公債ハ國ニ財本ノ缺乏ヲ生セシムルハ尚ホ租稅ヲ以テ此金
額ヲ徴収スル片ヨリモ一層甚タレキモノナリ
公債ハ財本ノ利子ノ價値ヲ増加セシメ是レカ為メニ諸業ノ
利ヲ減少セシムルモノナリ

公債ハ斯クノ如ク諸業ヲ妨害スルコトハ氏ハ之レヲ認メテ右ニ
掲載セシ種々ノ弊害ノ内ニテ最モ重大ナルモノト做セリ
以上ニ論述シ来リタル所ヲ約言セハ則チ公債ハ現今ノ財ト將
来ノ財トヲ大ニ減少セシメ又人民ト政府トノ道德ヲ紊ルヘ
キモノナリ蓋シ是レ財ヲ減少スルノ害ヨリ一層甚タレカルヘ
シ
公債ノ結果タル斯クノ如ク其レ大ニナリト雖モ若シ其金額巨
大ナラス且ツ永遠ノ期限ヲ以テ漸次ニ之レヲ還償スレハ則チ
其影響ハ自ラ僅少ナルヘシ又公債ヲ有益ノ事業ニ使用スルニ
於テハ則チ其好結果ヲ以テ其弊害ノ一部分ヲ贖フヲ得ヘキナ
リ然リト虽モ若シ之レニ及シテ無益ノ事業ニ使用スル片ハ其
害ハ愈々大ナルヘシ

第十八篇

公債ノ還償減債ラシムルバンクルート公債ノ還償ノ減利ヲ論ス

第一章

公債ヲ還償スルハ國益タルヤ否

夫レ一人一國ヲ問ハス負債アレハ之レヲ還償シテ已レカ義務
ラ免カレハ即チ其便益タル贅セスレテ明カナリ

然リト虽氏之レヲ排撃シテ及對ノ説ヲ主張スルモノアリ千八
百六十年六月五日巴理府ニ於テ或ル經濟家ノ集會セシ時ニ當
リ若シ政府ニテ還償ノ期限ヲ約定ニサルハ還償セサルニ若
カストズフノ論ハ大イニ保庇セラレタリ乃チ此集會ニ於テ橋
梁堤防ノ副監タル「ジョージ」氏ノ曰ク若シ政府ニテ還償スル
ヲ約定セサルハ政府ノ會計豫算簿中ニ國債償却ニ充ツヘキ
金額ヲ登録セサルハ即チ之レヲ還償セ至當ノ事ニシテ且國益

タリ若シ歳入額ノ贏餘タルニ於テハ之レヲ國債償却ニ充ツル
ヨリモ寧ロ之レヲ以テ租稅ヲ減少スルニ若カスト同氏ハ何ノ
理由ニ因ツテ此説ヲ發セシヤラ今左掲示セントス

同氏ハ正理上ニ就テ論スルハ現在ノ人ハ其政府ノ一ツノ公
益ヲ興サンカ為メニ費耗セシ財本ノ利子ヲ納ムルハ即チ已レ
ノ義務ヲ盡ストズフヘキナリ蓋シ彼等ハ此公益ヲ受ケ尚ホ之
レヲ子孫ニ移スヘケハナリト云ヒ又利益上ニ就テ論スルハ
今若シ國債ヲ還償スルモ是レカ為メニ決シテ利益ノ生スル
ナシ何トナレハ仮令ハ今公債利金ノ三フランクヲ消却センカ
為メニハ其母金七十フランクヲ消却セサルヘカラス之レヲ納
稅者ニ要求シテ還償スレハ後來此納稅者ノ毎歳納ムヘキ租稅
ハ則チ三フランクヲ減少スト虽氏又彼レノ歳入ノ減少スル
其稅額ノ減少ニ超過スヘキラ以テナリ若シ政府ニテ七十
フランク

ンクノ財本多彼レニ徴收セサリシナラバ彼レカ此七十フラン
ク財本ヨリ得ル所ハ必ス三フランクヨリ多カルヘケルハナ
リ加之政府ニテ此七十フランクヲ徴收スルニハ其費用ヲ要シ
又七十フランクノ公債証書ヲ購求スルハ市僧ノ周旋銀ヲ支給
セサルヘカラス是等ノ費用ハ亦々納税者ニ七十フランクノ外
ニ課セラルヘキナリ是レニ由ツテ之レヲ觀レハ國債ヲ還償ス
レハ其國及テ衰微スヘシ故ニ政府ハ國債ヲ還償センカ為メニ
納税者ノ財本ヲ徴收スルヨリ寧ロ之レヲ彼レノ手中置カシメ
ハ彼カ年々之レヨリ得ル所ハ公債ノ利金ヨリモ一層多カルヘ
シト云ヘリ

此說ニハ種々ノ答辨ヲ為レ得ヘキナリ即チ左ニ揭示セリ

第一 ヲニビユイ氏ノ正理上ニ就テ論スル所ニ於テハ先ツ氏ハ
有益ノ事ニ使用シタル公債ノ事ノミヲ論究シタリト云フコトニ

着目セサル可ラス蓋シ公債ヲ有益ニ使用スルハ尋常外ノ事ナ
リ其他氏ノ說ヲ辨駁シテ公債ヲ還償スルヲ可トセハ氏ハ又恐
ラリハ左ノ答辨ヲ為サン曰ク然ラハ則チ今之レヲ還償セント
スルハ過去ノ人ノ造為セシ負債ヲ現今ノ人ノミニテ支給セ
サルヲ得ス豈不正ト云ハサルヘケンヤト又之レニ應センニハ
今爰ニ論スル所ハ現今造為セシ負債ノ事ノミニシテ往時ノ負
債ノ事ニアラスト云フコトヲ以テセン

第二公債ヲ還償スルニ於テハ實益ノ生スルヤ否ヲ考究スルニ
ハ先ツ一人ト一國トヲ區別セサル可ラス蓋シ此區別ハ經濟上
ノ議論ニ於テハ最モ緊要ノ事タリ往々論者ハ此區別ヲ判然タ
ラシメサルカ為メニ論上ニ一大紛議ノ發生セシコト尠シトセス
國即チ人民ノ總體ニ其負債ヲ償還スルニ於テハ各自ニ於ケル
ヨリモ一層富ムモノニハ非サルナリ抑國ハ其負債ヲ免レント

スルニハ必ス缺失ヲ為サ、ルヲ得スト雖此是カ為メニ其国ノ
形態ハ潔白純精ト成リ且ツ其主意ハ諸事ノ整頓、費用ノ節儉及
ト後来ノ計畫ヲ為サントスルニアリト言フヘクシテ自ラ其情
態ハ改良スヘシ是レ則テ「負債ヲ支給スル者ハ富ムト云フ格言
ノ意義ニ適ヘルモノト云フヘシ加之國ハ其負債ヲ消却スレハ
必ス民心ヲ得ルヲ愈厚キヲ加フルカ故ニ他日得失ニ拘ハラズ
公債ヲ募集セサルヲ得サル時ニ當リテ容易ニ之レヲ募集スル
ヲ得ヘシ

納税者ニ就キテ論スレハ是レトウシク異ナル所アリ蓋シ納税者ハ國債ノ
利子ヲ支給スルニハ自己ノ有スル財本中ヨリ得ル所ノ利益ヲ以テ又此國債ヲ
消却セシムルニハ此財本ヲ放棄スルヲ以テスルモノナレハナリ今爰論究スヘキモノハ
納税者ノ便益其財本ヲ保有シテ國債ノ利子ヲ支給スルトニア
リヤ又ハ之レヲ放棄シテ國債ヲ消却セシムルトニアルヤノ一

事ナリ若シ此財本納税者ノ手ニアルハ國債ノ利金ヨリモ多
量ノ利益ヲ生スルナラハ則テ「ジユユイ」氏ノ言ハ其當ヲ得タルモ
ノト虽氏又之レニ及シテ其利益ハ國債ノ利金ヨリ少量ナルハ
ハ則テ其説ハ不當ノモノト云ハサルヘカラス凡ソ納税者中ニ
於テ期クノ如ク其財本ヲ保有スルヲ利アリトシ又ハ之レヲ放
棄スルヲ利アリトスルモノアリテ同一ナラサルハ彼等ノ才能
ト分限トノ差異ニ因ツテ然ラシムルモノナレハ何レガ利便多
キモノト一般ニ確定スルヲ能ハサルモノナリ然リト虽氏予輩
々既ニ陳述シ来リタル道理ニ據レハ政府ハ其負債ヲ還償スル
ニ於テハ必ス常ニ利便多キモノナリ是ニ又一言ノ附スヘキモ
ノアリ何ソヤ曰ク債主ニ還償シタル財本ハ復タ能ク利益多キ
事ニ使用スル他ノ六ニ轉移スルモノナリ即チ是レナリ
是レハ由テ之レヲ觀レハ總テ政府ハ其負債ヲ還償スルハ良善

ノ事ト云フヘキナリ然リ而シテ若シ政府ニ於テ其負債ヲ還償スルハ不利ナリト云フコトノ明瞭タル時ニ於ケルモ尚ホ政府ハ其負債ヲ還償セサル片ハ恰モ之レヲ有セサルカ如シト云フ此抱腹スヘキ説ニ根據シテ以テ政府ハ徒ラニ其負債ヲ増加スルモ決シテ害ナキモノト確定スルハ甚タレキ過誤ト云フヘキナリ

公債ハ實ニ之レヲ還償スルトセサルト問ハス又既ニ還償セシトセサリレトヲ論セス總テ上ニ揭示セシ如ク痛歎スヘキ結果(フロレーエストラダ)氏カ公債ノ危害ヲ陳列セシモノヲ見ルヘシヲ來タサ、ルハナシ

予輩ハ公債ヲ還償スルハ便益タルヤ否ヤノ論題ニ就キテ既ニ論究シ來リシカ今又租税ヲ減少スルハ公債ヲ以テセステ歲入ノ贏餘ヲ以テスヘキヤ否ヤノ論題ニ就キテ一言スヘキモノ

アリ

租税ノ甚タ重キ時カ或ハ其賦課法ノ極メテ悪シキ時ハ愈歲入額ノ贏餘ヲ以テ之レヲ改正セサル可ラヤ必然タリ既ニ英國ニテ經濟上及ヒ會計上ノ改革租税ヲ減少スル事等ヲ施行セシハ即チ歲入ノ贏餘ヲ以テセリ但シ此改革ノ為メニ稅額ハ減少シ又其賦課法ハ公平ト成リシニ尚ホ公債ヲ償却スルノ方法ハ之レヲ永續セシメ又之レヲ増加スルノ方法ニ勝レルモノト做セリ

第二章

國債ヲ償却スル種々ノ方策

第一策 凡ソ國ハ「リカルド」氏ノ言ヘル如ク其所有物ヲ賣却シテ其負債ヲ償却シ得ヘキモノナリ嘗テ「フロレーエストラダ」氏ハ之ノ如ク断定シテ言ルコトアリ曰ク常ニ正シク國債ノ利子

七 歳 省

ヲ支給シ出セル國ハ其債額幾許巨大ナリト雖此一時ニ之レヲ
還償スルヲ能ハサレハナレ何トナレハ若シ該國ニ之レヲ還償
スルニ足ルノ財本ナシトセハ斯クノ如ク常ニ此利子ヲ支給シ
出セル理由ナケレハナリト

此說ヲ理論上ニ於テハ寔ニ然リト雖此實際ニ之レヲ施行
センニハ政府モ人民モ為シ得ヘカラサル一果斷ヲ要スルヲ如
何セン

第二策 此策ハ官有地ヲ賣却スルニアリテ甚々施行シ易キモ
ノナリ獨逸聯邦ニ於ケル如ク悉ク之レヲ賣却シテ以テ國債ヲ
償却スル所アリ蓋シ是等ノ國ニ於テハ國債ノ利子ハ僅令ハ四
分半ナルモ官有地ノ收入額ハ僅カニ其地價ノ二分ニ當ルヲ以
テ乃チ之レヲ賣却スルニ若カストセル人ニ威權アレハナリ

第三策 此策ハ歳出ヲ減少シテ以テ歳入ヲ増加シ而シテ其贏

餘ヲ國債償却ニ充ツルニアリ此策ハ實ニ政府ノ舉行スヘキモ
ノナリ

曾ツテ合衆國政府ハ此尋常ノ方法ヲ以テ屢其國債ヲ償却シタ
リ然レモ之レヲ舉行スルニハ政府ノ深慮ト賢明トヲ要スルモ
ノナリ(合衆國ハ千七百九十年ヨリ千八百四十八年ノ間タニ其
國債五億弗ヲ還償セリ該國獨立戰爭ノ為ニ實ニ其國債ハ千
七百年代ノ末ニハ七億九千四百弗ニ至リシカ千八百三十五年
ニ於テ歳入ノ贏餘ヲ以テ全ク之レヲ償却シタリ其後土地ノ購
求印度ノ戰爭其他居多ノ原因アリテ亦タ國債ヲ生セシト雖此
千八百五十七年ニ至リ二千五百萬弗ニ之レヲ減少シタリ其後
又商業ノ衰頹ニ因リ海關稅ノ收入額大ニ減少セシカ為メニ
亦タ其債額殆ント二倍セリ而シテ千八百六十一年南北戰爭ノ
為メニ其額亦タ幾許増加スルナラン

此書ハ千八百六十二年ノ
著述ニ係ルヲ以テ斯ノ如ク

リ言シ
モノナリ

荷蘭ハ素ヨリ始メテ公債ヲ發明セシモノニシテ方今諸國中最
モ國債多キ國ノ一ナリト雖モ毎年歲入贏餘ノミニ因ツテ利子
ノ四百萬或ハ五百萬ヲ要スル債額即チ貳億万ヲ償却セリ

英國ニテハ章程ノ繁雜ナル實効ノ奉ラサル減債局ハ既ニ之レ
ヲ廢棄セリ方今ハ只歲入ノ贏餘アル片ハ之レヲ確立債對立債
ヲノ言ニシテ期限ノ定メナキモノヲ云フノ償却ニ使用スルノミ

予輩ハ次篇ニ於テ歲出ヲ減少スルカ又ハ歲入ヲ増加シ以テ歲
入ノ贏餘ヲ生セシムヘキ理財上ノ改革ニ付キ一二ノ考説ヲ閑
陳セン

此歲入ノ贏餘ハ之レヲ確立債證書ノ購求或ハ定期國債ノ還償
或ハ鑛道會社等ニ於ケル如ク抽籤ノ法ヲ以テスル定期証券ノ
交換ニ充ツルコトヲ得ヘキモノナリ公債證書ヲ購求シ之レヲ再

用セシテ全ク廢物トナシ以テ每歲公債ヲ償却スル片ハ即チ
年賦償却ノ如シ斯クノ如クナル片ハ每歲公債ハ其購求シタル
証券ノ金額ヲ減少シ且ツ之レニ準シテ其利子モ亦々減少スヘ
シ是レ則チ荷蘭ニ於テ施行スル所ノ方法ナリ

第四策 此策ハ予輩カ既ニ陳述セシ第三策ヲ実行スル為メニ
減債局ヲ用井ルニアリ

第五策 此策ハ公債ヲ全ク還償スルカ又ハ利子ヲ減少スルカ
其望ム所ニ任スヘシト債主ヘ公告スルニアリ總テ政府ハ甚々
靜謐ノ時ニシテ且大ニ人民ノ信ヲ得ル時ニ當リテ此策ヲ施ス
モノナルカ故ニ債主ハ率子皆具財奉テ今全ク還償サル、ヨリ
寧ロ其利子ヲ減少セラル、ヲ希望スルモノナレハナリ

第六策 此策ハ政府ノ其約束ヲ破フルニアリ前項ノ第四第五
第六、三策ハ次章ニ論スル所ノ目的ナリ

第三章

減債局附其本由

減債局ト稱スル行政上ノ事務局ハ如何ナル作用ヲ為スモノナルヤ今左ニ之レヲ説明セントス抑行政官ハ之レニ因テ以テ利子ヨリ利子ヲ收メ漸ク之レヲ蓄積シ漸次ノ償却法ヲ以テ國債ヲ減少スト揚言スト虽ヘ氏實際ニ於テ減債局ハ國債ヲ減却スルノ具タルヨリモ却テ之レヲ募集スルノ具ト成リタリ何トナレハ人民ハ減債局ノ設ケアレハ政府ニ於テハ既ニ國債償却ノ道成立スト信認シ以テ容易ニ其財本ヲ貸与スレハナリ

減債局ノ職掌ハ假令ハ爰ニ政府ニテ五分ノ利子ヲ以テ一億フランクヲ人民ヨリ借り而シテ毎歲納稅者ニ其利子ヲ支給スルカ為メニ五百萬フランクト又其母金償却ノ為メニ一億フランクトヲ要求スレハ減債局ハ此一億萬フランクヲ收領シ之レヲ

以テ公債証書ノ低價ナルキニ之レヲ購求シテ全ク減債局ノ所有ノモノト為シ而シテ其購求シタル証書ノ利子ハ減債局ニ收領シ毎年此利子ヨリ復々利子ヲ生セシメ而シテ遂ニ三十一年ノ末ニ至リテ夫ノ債額ト等シキ一億フラングノ財本(証書ノ金額)モ算入スラ造為スルニアリ若シ減債局ニテ償却ノ為メニ毎歲收領スヘキ金額一億萬フランクヨリサナク假令ハ四十六萬二千四百フランクナルキハ即チ五十ヶ年ノ末ニ至リテ一億フランクノ財本ヲ造為スヘキハ計算上ニテ明カナリ

右ノ計算ハ數學上ニ於テハ寔ニ斯ノ如クナルモ減債局ニテ實際其目的ヲ達セシメ未タ曾テアラサルナリ蓋シ其著明ナル原因ハ若シ減債局ニ若干ノ金額アルキハ政府ハ直チニ人民ヨリ借用セシテ此金額ヲ那務ニテ借用シ以テ其收入スヘキ歳入ヲ前以テ使用スルニ又リ是レ屢行ハルノ事ナレ氏減債局ヲシテ其

主意ヲ達セシノサルモノナリ何トナレハ右キヲ以テ還償シ又
同時ニ左キヲ以テ借用スルノ道理ナレハナリ又此事タルヤ唯
商會ノ市儈ヲ利セシムルノミニシテ其他一般ノ衰頽ヲ来タス
ヘキモノナリ又政府ニテ諛局ノ資本ハ決シテ之ヲ動カスナ
レト約定シ且ツ自之レヲ動サ、ルトニ注意スルト虽凡實際常
ニ之レヲ那移シテ使用スルニ至リタリ
其他合利(利子)ヨリ復タ生スル所ノ利子ヲ以テ僅カノ年限ニ於
テ國債ヲ減却スヘキ財本ヲ生セシムルハ即チ之レヲ生セシム
ル方法ノ成立スルニアラサレハ能ハス之レヲ重言スレハ減債
局ニテ公債証書ヲ購求スヘキ資本ヲ保有スレハ忽チ大藏ヲレ
テ之レヲ借用セントノ念ヲ興起セシムルモノナレハ諛局ハ之
レヲ保有セシテ直チニ証書ヲ購求シ以テ夫ノ財本ヲ生セシ
ムルノ方法ヲ立ツルニ非サレハ能ハサルモノナリ

凡ソ理財官ハ突ニ國債ヲ減却シ而シテ終イニ還完スト毎子ニ
公言スト雖凡概チ彼等ノ目的ハ政府ノ債主ノ信ヲ得テ以テ公
債ヲ募集セントスルニアルノミ彼等カ夫ノ合利ナルモノ、強
大ナルトト減債局ノ効驗アルトニ就テノ謬説ヲ世上一般ニ
蔓延セシメシハ即チ此目的ヲ達センカ為メナリ又財本ハ生財
ノ業ニ據ラサレハ生セサルモノナルニ財本ノ不可思議ナル産
生ノ本源ハ減債局ノ構造中ニアリト世人ヲシテ信用セシメシ
ハ是レ亦夫ノ目的ヲ達センカ為メナリ
減債局ヲ設立スルノ主意ハ寔ニ良善ナリト虽凡實際上ニ於テ
ハ諛局ニ少シク資本ノ聚積スルアレハ之レヲ國債償却ノ為メ
ニ使用セシテ全ク他事ニ使用スルト殆ント常ノ如クナルカ
故ニ「ルハミルトン」氏及「カリカルド」氏ノ言ヘル如ク減債局ハ國
債ヲ漸次減却シ終イニ全ク之ヲ消却スルノ具ニアラシテ即

世人ヲシテ政府ニテ全ク之ヲ還償スルト云フコトヲ信用セシメ之レニ因テ國債ヲ容易ニ募集シ、世人ヲシテ好意ヲ以テ其利子ヲ納メシメ、巨大ノ金額ヲ容易ニ使用シ、會計簿ノ実事ヲ隱匿スルノ具トナリタリ

大投機者(大投機者)政府ヨリ直々ニ公債証書ヲ購シ置キ時機ヲ見テ又他人ニ之レヲ賣却スル者ヲ云フハ減債局ノ為メニ眩惑セラルモノニアラス及テ諛局ハ彼等ヲシテ利セシムルモノナリ減債局ヲ設立シ以テ國債ヲ償却スト言フト虽氏右ノ如ク只有名無實ニシテ畢竟會計上ノ欺詐タルヲ免レス故ニ國債償却ノ實際奉行サル、ニハ政府ニテ其歳入ノ贏餘ヲ之レニ充ツルヲ要ス若シ歳入ノ贏餘ナキハニ國債償却ノ為メニ歳入中ヨリ若干ノ金額ヲ分ツ片ハ即チ會計簿中ニ不足ヲ生セサルヘカラス之レヲ補足スルニハ浮漂債ヲ増加セサルヘカラス而シテ終イ

ニ亦タ之レヲ確立債ニ變遷シ以テ國債ヲ増加セサルヘカラスアルコトニ至ルヘシ斯ノ如キハ稀レニ常例ノ外ニアリト虽氏尋常一般ノ事ナリ

夫ノ多費ヲ要スル減債局ヲ設立セサルモ諛局ノ目的ヲ達シ得ヘキ方法アリ即チ大藏ニ於テ直々ニ毎歳國債ノ一部分ヲ減却スルニアリ然ルハ毎翌年漸次之レカ為メニ支給シ出ス所ノ利子減少スヘシ是レ則チ年賦償却ノ方法ニシテ毎歳誦途ノ一部分ヲ減少スルノミナラス亦タ其利子モ減少スヘキナリ既ニ此レベシハ氏ノ言ヘルコトアリ曰ク大藏ニテ國債償却ノ為メニ親ラ使用シ得ヘキ歳入ノ贏餘ヲシテ殊ニ減債局ニ附與スルニ及ハカルヘシト又曰ク一時ニ國債ヲ消却スルカ為メニ減債局ヲシテ其資金ヲ集聚セシムルヨリモ寧ろ毎歳其一部分ヲ減少スニ若スト氏ハ夫ノ減債局ノ欺詐ニ眩惑サレザル人ニシテ其

言ヤ寔ニ正鵠ヲ誤ラサルモノニシテハシ實ニ之レヲ一時ニ減却セントスルモ其期ニ至ルヤ豈指ラ屈シテ待ツヘケンヤ人或ハ云ハン國債償却ノ資金ハ減債局ノ如キ更ニ一局ヲ設ケ以テ之レヲ管理セシメハ大藏ノ之レヲ直管スル片ノ如クニ容易ニ之レヲ動カシ得サルベシト然レモ曾ツテ之レヲ事實ニ徵スルニ政府及立法者ノ之レヲ使用セントスル片ニ當リ減債局ニテ拒絶セラレシト甚タ稀レニシテ常ニ政府ハ種々ノ假託ヲ以テ該局ノ資金ヲ其用ニ供シタリ抑減債局ヲ可否スルノ論タル紛々トシテ一定セサルハ右ニ陳述シ来リタル事情ヲ認得セサルカ為メナリ

合衆國ハ曾テ減債局ヲ設立セシトナカリシモ其負債ヲ償却スルニ毫モ困難アルヲ見サリキ英國ニ於テハ千八百二十九年ニ夫ノ減債局ナルモノヲ廢棄シタリ始メ千七百八十六年ニ

氏ノ之レヲ設立セシヨリ之レヲ廢棄セシ迄ノ間ニ其國債ヲ償却セシ金額ハ數億磅ニ至リシニ却テ其募集セシ金額ハ數十億磅ニ至リタリ

佛國ニ於テハ減債局ハ方今尚成立セリ抑千八百十六年以來該局へ收入セル金額ハ三十一億七千八百萬ニ至リシカ其内該局ノ國債ヲ償却セシ金額ハ十六億三千三百萬ニシテ其餘十五億四千五百萬ハ種々ノ國費ヲ補足スル為メニ後々政府へ還納セラタリ加之該局ハ斯ノ如ク十六億三百萬ノ國債ヲ償却スト虽モ又政府ハ其間ニ三十四億二千九百萬ヲ募リタリ千八百六十一年四月ドカウヱル氏ハ伊太里ノ公議院ニ於テ諸州ハ種々ノ負債ヲ略メテ以テ一個ノ國債ト為サンカタメニ國債原簿ヲ設立センコトヲ陳シ併セテ往時ヨリ成立シ且欺詐ノ策タルニ過キサルモノニシテ全ク有名無實ニ屬スル國債償

法ヲ廢棄シ而シテ毎歳ノ會計豫算簿中ニ国債償却ニ當ツヘ
キモノヲ登録センコトヲ論述シタリ
然レモ又爰ニ注目スヘキコトアリ何ソヤ斯ノ如ク減債局ヲ駁撃
スト虽氏決シテ真ニ國債ヲ減少スルコトヲ駁撃スルニハ非サル
ナリト云フコト即チ是レナリ世人徃々之レヲ誤解スルカ為メニ
理財上ノ議論ニ於テ一大紛議ノ生スルコトアリ

減債局ノ来由

夫レ減債局ヲレテ世ニ施行セシメタルモノハドクトルプリ
ム氏ナリ蓋シ氏ハ夫ノ合利ノカハ恰モ涸尽セサル金坑ノ如キ
モノナレハ諛局ノ功力亦々強大ナリト論述セシテ以テナリ初
メ之レヲ設立セントノ考説ハ官吏中ニ傳播セリ然リ而シテ殊
ニピット氏カ納稅者ノ眼前ニ置カレタル此ナナイト桶アナイ
トハ

テナユニ因リ彼等死後ニ女子ヲ云フ此女子ハ悉ク各々其夫ヲ斬
殺セシメ受ケレト云フ小説アリ是レ則チ減債局ニ幾許資金ヲ納
ムルモ彼ノ無底ノ桶ノ如ク其功ナキモノト云フ義ニシテ即チ
之レヲ誹謗セシモノナリニ因テ以テ大藏ノ歳入ヲ増殖セント
スルノ謬説ヲ擴充セシムルコトニ汲々トシテ努力シタリ

ロベルトハミルトン氏ノ説ニ據レハ減債局ノ第一實行ハ英國

ニ於テハ千七百十六年ウバルポール氏ノ宰相職タリシ時ニ公
債証書ヲ購求シ以テ公債ヲ減少セントセシ時ニアリト云ヘリ
然レモ其考案ハ蓋シ尚ホ其以前ニ起リシナルヘシ既ニ居多ノ
著述家ハ千五百年代ノセーヌ人アマルドグリマルデイ氏ニ其
發明ヲ歸シタリ英國ニ於テモ此考案ハウバルポール氏ノ時代
ニ之レヲ實行セシ以前既ニ貴族スタンホープ氏之レヲ建議セ
リ又此スタンホープ氏ノ前既ニナタニエルグルーンド氏ハ公
債論ト題セル著書ヲ世ニ公布シ其中ニハ合利ノカヲ以テ國債

償却スルコトヲ論究セリ其他適合利ノカラテ以テ國債ヲ償却セ
ントスル此方法ノ發明ヲシテ或ハ路易第十五世ノ幼年ノ間ヲ
ルレア^ン候ノ攝政タリシ時有名ナル理財家バ^リリス兄弟ニ歸
セシメ或ハ路易第十四世ノ時代ニ總監督タルマンヨ^ー氏ニ歸
セシムルモノアリ佛國ニ於テハゴルベル^ル氏ノ宰相タリシ時ニ
始メテ減債局ナルモノヲ設立シタリ氏ハ當初國債ヲ募集スル
ノ論ニハ烈シク抵抗セシモ終イニ之レニ從ハサルヲ得サルニ
至リタリ此時ニ於テ定期國債償却局ナルモノヲ設立セシカ之
レカ為メニ漸ク利子五分ノ割合ヲ以テ國債ヲ募集シ得ルニ至
レリ其後千七百六十五年還債局ナルモノヲ設立セシコアリシ
モ全ク有名無實ニシテ真ノ欺詐タルニ過キサリキ^{デュフレール}ス
セイ^ンレ^{ラン}氏曰ク千七百六十五年ニ設立シタル還債局ハ曾
テ國債ヲ還償セシコナシ其所以ハ該局ノ資金ハ國幣ニ悉ク轉

遷セシカ故ナリ而シテ此資金ノ監守官ヲシテ黙止セシムルカ
為メニ毎歲彼レニ千^エト^キ給與セラレタリト然レモ氏ハ此國
幣ノ監察官タレハ之レヲ此奸惡ナル監守官ニ支給セシハ即チ
氏ト云ハサルヘカラス
英國ニ於テ設立シタル減債局ハ千七百八十六年ヨリ千八百二
十九年ニ至ルマテノ間々成立シ佛國ニ於テハ千八百十六年ニ
設立シタル減債局ハ方今尚ホ成立スト云フコトハ予輩ハ既ニ聞
陳シタルナリ

第四章

國債ノ還償利子ノ減少及其變更

凡ソ政府ハ國ノ靜謐繁栄ノ時ニ於テ漸次ニ其負債ノ利子ヲ減
少セシメ以テ其負債ニ減少スヘキ一方畧ヲ有スルモノナリ之
ヲ名ケテ利子ノ減少ト云フ

此方畧ハ毫モ還償セスレテ國債ノ一部分ヲ減少セシムルモノ
ナリ此方畧ハ政府ニテ仮令ハ五分ノ利子タル公債証書ヲ所持
人ニ四分半ノ利子タル新證書ト交換スルカ然ラサレハ其母金
ヲ全ク還償スヘシト報告スルニアリ蓋シ時機ノ宜キヲ撰ミテ
之レヲ報告セハ必スシモ彼等ノ過半ハ今一時ニ子本トモ還償
サル、ヨリモ寧ロ從來ノ証書ヲ低利ノ新證書ニ交換スルノ便
宜ニ若カスト乃チ利子ノ變更ヲ請求スヘシ何トナレハ彼等ハ
當時資本ノ融通ノ景況ヲ見ルニ政府ニ預ケ置クカ如キ安全ノ
方法ニテ今還償サルヘキ資本ヲ四分半ノ利子ヨリモ多ク利益
アル事ニ用ヰルヲ能ハサルヲ認得スレハナリ
一國ノ他國ヨリモ一層靜謐繁榮ニシテ是レカ為メニ其政府ハ
大ニニ民信ヲ得且該國ノ財本大ニ増殖セシキハ忽チ其政府ニ
テ右ノ方法ヲ以テ國債ヲ減少セシメ古今勘シトセス試ムニ其

例ヲ舉テ之レヲ示サンニ千八百五十二年佛國政府ニテ此方法
ヲ用ヒタリ即チ其第三月十四日ノ帝命ヲ以テ總テ五分ノ利子
タル公債証書ノ所持人ニ母金ノ全額ヲ還償スルカ然ラサレハ
其利子四分半ニ減少スルカ何レ共其意ニ任スヘキラ以テ各々
其望ム所ヲ上申スヘシト公告シタリ當時五分ノ利子タル國債
ノ高ハ三十五億八千七百萬ニシテ即チ毎歲其利子ノ高ハ一億
七千八百萬ナリ其中彼ノ布告ニ因ツテ還償ヲ請求セシ數ハ僅
カニ七千三百七十萬ニシテ即チ其利子三百六十八萬五千ナリ
而シテ彼ノ源額三十五億八千七百萬ノ中ヨリ還償セシ數七千
三百七十萬ヲ除去セハ其餘リノ負數千三百萬ト成ル是レ則チ
五分ノ利子ヨリ四分半ノ利子ニ減少サレタル數ニシテ其利子
ハ即チ四分半ニシテ一億五千八百萬ナリ之レヲ從前ノ五分ノ
割合ヲ以テ計算セハ一億七千五百萬ニシテ其差千七百五十萬

ナリ此ハ是レ利子變更ニ因ツテ生スル毎歳ノ利益ニシテ即チ
國債中三億九千萬ハ還償セスレテ自然ニ減却セシカ如キナリ
以テノ利子等ノ計筈ニハ全數ヲ作スカ為メ僅少ノ加減アリ
而シテ斯ノ如ク政府ハ五分ノ利子ヲ四分半ニ減少セシカ爾後
十間ハ又之レヲ再ニ減セサルヘシト各債主ニ保証シタリ
千八百四十四年白耳義ナール英吉利ニ於テ三回國債利子ノ
著シキ減少アリ其後千八百四十八年前バビエールニ於テモ亦
タ著シキ減少アリ即チ英國ニ於テハ以前ノ減少ニ因ツテ三分
半ト成リタルモノヲ更ラニ三分ニ減少シタリ又バビエールニ於
テハ五分ノ利子ヲ三分半ニ減少シタリ
其他還償スヘキ母金舊額ヲ増加シ以テ其利子ヲ減少スルコト
リ是レ歳入額ノ不足ヲ匡救スルノ策ナリ既ニ千八百二十五年
ビレール氏ノ宰相佛國ナリノ時ニ當リ其第五月一日ノ法令ヲ

以テ總テ利子五分ノ佛國公債証書ヲ所持スル者ニ其証書ヲ四
分半ノ利子ニシテ且今ヨリ後十ケ年間ニハ全ク還償セラレハ
キ新証書ト交換スルカ否ラサレハ其百フランクノ証書ヲ百三
十フランクノ証書面ニシテ利子ハ三分タルヘキ新証書ト交換
スルカ何レトモ其欲スル所ニ任スヘキヲ以テ此法令後三ケ月
間ニ其旨上申スヘシト布告シタリ是レカ為メニ公債ノ母金ハ
二億〇三百萬増加シタリ然レ氏又毎歳ノ利子ハ六百二十三萬
〇百五十七フランクニ減少セリ
或ル論者ハ斯ノ如キ所為ヲ不條理ト做シ政府ハ隨意ニ國債ヲ
還償スルノ權理ナシト言ヒ且斯ノ如キ減利ハ公債証書ノ所持
人ハ所有物ヲ侵スモノナリト云ヒ大イニ之レヲ誹議セリ然リ
ト虽レ法律家及ヒ理財家ハ正理上ニ着目セシカ又ハ政府ノ約
束上ニ着目セシカ其如何ヲ知ラサレトモ其過半ハ皆政府ニテ

ハ随意ニ國債ヲ還償スルノ權理アリト開陳シタリ抑公債ニ永
久ノ名稱アルハ終生ノモノト全ク異ナリテ其債主ハ永久母金
ノ還償ヲ請求スヘカラサルヲ示スカ為メナリ又千七百九十
三年公債ノ原簿ヲ造為セシ立法者ハ負債者タル政府ニハ其事
宜ニヨリ其負債ヲ還償（縱令之レヲ明示セサル時ニテモ）スルノ
權理アリト為セシハ蓋シ當然ノ事ナルヘシ
佛國ニ於テハ夫ノ減利ヲ舉行スルニ際シ困難ヲ來タスヘキモ
ノハ只千八百二十五年前ノ公債ノミナリ何トナレハ此年ニ於
テ政府ハ減利ノ權ヲ占有スルモノナリト云フヲ公告シ且之
レヲ實際施行セシカ故ナリ
爾來公債母金ノ全額ヲ還償センコトヲ公告スルヨリ生スル夫ノ
減利ハ不正ノモノトシテ之レヲ排撃スルモノナカルヘシ蓋シ
此減利ハ政府ニテ壓抑ヲ以テ之レヲ命スルニアラス債主ノ自

ラ之レヲ請求スルモノナレハナリ又此減利ハ國債ノ為メニハ
甚タ有益ノモノタル事ニ附テ亦タ之レヲ然ラスト抵抗スル者
ナカルヘシ何トナレハ國債ノ利子ヲ減少スルハ即チ國債ノ一
部分ヲ減却スルト一般ナレハナリ然リト雖モ政府ニテ時機ニ
因リ減利ヲ舉行スルコトアリテ新タニ公債ヲ募ルハ其債主ハ
早晚利子ノ減セラル、コトヲ豫メ考量スルカ故ニ政府ニテ決シ
テ母金ノ還償ヲ言ヒ出シ而シテ利子ヲ減少セシムルコトナカル
ヘキ情勢ノ時ヨリモ高利ノ約束ヲ以テスルニ非サレハ之レヲ
募集シ得サルヘキナリ是ニ由テ之レヲ觀レハ到底夫ノ減利ナ
ルモノハ爾來公債ヲ募集セサルト云フ時ニアラサレハ真ニ有
益ノモノニ非サルヘシ
前項ニ掲載シタル公債ノ還償利子ノ変更利子ノ減少ト云フ此
三語ハ大抵皆同意ニシテ畢竟公債利子ノ減少ト云フ義ナリ

第五章

バンクロード公債ノ還償

予輩カ既ニ論シ来リタル所ノ減利ハ皆政府ニテ母金ノ全額ヲ
還償センコトヲ告示スルニ因リテ債主ノ自ラ好シテ請求スル所
ニ係ルト虽氏又時トシテハ政府ノ前政府ヨリ引受ケタル負債
ヲ消却セシメンコトヲ欲シテ其債主ニ母金ノ減額ヲ命セシコト
リ是レ則チ眞ノバンクロートヲ命セシモノナリ今其例ヲ舉ケ
ラ之レヲ示サンニ佛國ニ於テ千七百九十七年管事政ノ時ニ當
リテ當時ノ國債三分ノ二ノ減額ヲ命シ其三分ノ一ハ母金依舊
國債ト爲シ而シテ其三分ノ二ノ代リニ官有物ノ抵當アリ且ツ
賣買ノ自由ナル證券ヲ債主ニ下付シタリ然リト虽氏其発行ノ
時ニ於テ已ニ其估價ハ百フランクノモノハ七十乃至八十フラ
ンクニ低下シ其後々暫時ノ間ニ無償ノモノト成リタリ往昔獨

裁政治ノ時ニ於テハ政府ト其債主トノ決算法ハ大抵此バンク

ロートノ命ヲ以テスルコトニアリタリ

抑バンクロートナルモノハ政府ニテ其困難ヲ免カル、爲メノ甚

々便宜ナル方法タルヤ必セリ然レ氏是レ横逆強奪ノ手段ニシ

テ債主ノ多分ヲ亡滅セシメ而シテ彼等ノ醜態ヲ醸生セシムル

モノナリ且此手段ハ政府ヨリ其國民ニ不正不徳ノ模範ヲ表示

スルモノト云ハサルヲ得ス

道徳上ニ就テ見ル片ハ此手段ハ或ハ時ニヨリテ之ヲ保庇スル

誤解論者アリシコトアリ不正不良タルハ贅セスレテ甚々明瞭ナ

リ

又會計上ニ就テ見ル片ハ此手段ハ今後決シテ公債ヲ募集スル

ニ及ハスト云フ時ニ非サレハ實益ナキモノナリ若シ之レニ及

シテ此手段ノ後公債ヲ募ルコトアレハ過去テ利セシ代リテ将来

ニ於テ損スルト云フカ如キニ至ルヘシ今古今ノ經驗ニ就テ之
レヲ考フルニ政府ハ常ニ其約束ヲ固守スル愈々強ナレハ亦々随
ツテ愈々大ニ便益ナル約束ヲ以テ公債ヲ募リ得又其約束ヲ固守
セサル愈々強ナレハ亦々随ツテ愈々大ニ不便ナル約束ヲ以テスル
ニ非サレハ募ルコトヲ得サルモノナリ英國ハ會計上ノ困難ナル
時ニ於ケルモ又甚々巨額ノ國債ヲル時ニ於ケルモ寔ニ容易ニ
新公債ヲ募リ得ル所以ノモノハ即チ其約束ヲ固守シテ債主ノ
權理ヲ犯カサ、ルカ故ナリ是ヲ以テ該國ハ十七七百年代ノ未ヨリ
千八百年代ノ始ノニ至ル僅カニ二十年間ニ於テ殆ント二百億
ノ巨額ヲ募集スルヲ得タリ之レニ及シテ西班牙國ハ近時マテ
新タニ國債ヲ募リ得サリシハ即チ其約束ヲ固守セサリシカ故
ナリ

第六章

前論ノ結局

前ノ數章ニ於テ論セシ所ニ據レハ到底左ノ如ク論結セサル可
ラス

減債局ハ容易ニ國債ヲ還償センカ為メニ之ヲ設立スル者ナル
モ其實唯國民ノ會計上ノ事ニ関セル思察ヲ眩惑セシメ且歳出
額ヲ増殖セシムルノ具ニ過キス

是レニ由テ之レヲ觀レハ國債ヲ減却スルノ方法ハ左ノ數件ヲ
施行スルニアルノミ

第一 政府ノ随意ニ處分シ得ヘキ官有物ヲ賣却スル事

第二 經費ヲ減少スル事

第三 歳入ノ贏餘ヲ國債償却ニ當ツル事

以上ノ三法ハ尋常一般ノ者ナルモ其功驗著シキモノナリ

第四 好時機ニ投シテ國債証書ノ母金ヲ還償センコトヲ告示

し而して債主らしし其利子ノ減少ヲ自カラ望マシメ以テ支給スヘキ國債ノ利子ヲ減少スル事

第五 後々第二十章ニ於テ論スル所ノ如キ理財上ノ改革ヲ施行シ以テ歳入額ヲ増加セシメ又ハ歳出額ヲ減少セシメ及ヒ生財ノ為ノニ最モ便宜ナル^{コトナレシ}情状ヲ發生セシムル事

右數種ノ方法ハ國債償却ノ為ノニハ^{リセムソレアル}單一ノ資本タルモノニシテ且真誠ノ資本タル^{リセムソレアル}國財ノ増殖スルニ應シテ其功驗モ亦々著大ナルヘシ

第十九篇

租税及ヒ公債ノ使用法ヲ論ス

第一章

公財ヲ使用スルニ正當ヲ得ル事

蓋シ租税及ヒ公債ノ性質ト是レカ為メニ醸生スル所ノ無數ノ弊害トヲ認識セハ之レヲ裨益アルコトニ使用シ以テ其益ヲシテ其言ヲ賠償セシメサルヘカラス

此使用法ヲシテ良善ノモノタラシムル為メノ要點ハ第一ハ政府ノ人民ニ便益ヲ得セシムル為メノ公務ヲ真正ノモノト為スニあり第二ハ租税ノ用法ヲ至正ノモノトナスニあり之レヲ重言セハ都テ租税ヲ納ムル者ニバ之レヨリ生スル所ノ利益ハ悉皆平等ニ之レヲ得セシメ以テ人民中ノ一部分或ハ一地方ヨリ之レヲ徴收シテ他ノ一部分或ハ他ノ地方ヲ利セシムルカ如キ

1 無ラシムルニアリ
斯ノ如ク一方ヲ利シテ他ノ一方ヲ害スルカ如キ不正ノ事ナカ
ラシメ以テ政府ニ於テ人民ニ利益ヲ得セシムル為メノ公務ノ
輕重ニ從ツテ租稅ヲ公平ニ賦課スルハ大政府ノ最大緊要ナ
職務ナリ然レモ悲ヒカナ實際ニ之レヲ施行スルハ寔ニ至難ノ
事業ニシテ各地方ノ公費ト其租稅ノ分賦トヲ分別スルニ非サ
レハ此目的ヲ達スル能ハス併セテ中央集權ノ弊害ヲ洗除スル
事能ハスルモノナリ(レ)ラニスドラウベルギ^ユ氏ノ著書中ニ千七
百八十九年佛國大變革ノ前後ニ於ケル公費ノ不公平ヲ明記セ
リ今之レヲ抄録シテ左ニ揭示ス佛國ノ南東部南西部及ヒ中部
ノ頗ル^薄待^サレタル十二州ニ於テハ其經費ノ總計僅カニ五千
百十八萬六千^{フラン}ニ過キヌ其他^口セル州ノ經費ハ二百
六十九萬四千^{フラン}ニ過キヌ州ハ五百八十二萬五千^{フラン}ニ

ニ過キヌ然ルニ巴黎府ノニニテハ億七千七百^{フラン}ニ過キヌ
耗ヨリ故ニ七州ハ各其納稅額ヨリ多量ヲ費シ他ノ七十六州ハ
各其納稅ヨリ少量ヲ費シタリ但シ此七十六州ノ中ニ其費額ノ
納稅額ノ半ニ過キサル所モアリト云フ
凡ソ租稅ノ強半ヲ供給スル所ハ皆鄉邑ニアリテ之レヲ使用ス
ル所ハ多クハ都府ニアリ然レモ都府ニハ種々ノ權勢假託アリ
テ之レヲ支消スル概テ無益ノ用ニ供シ否ラサルモ納稅者一般
ノ為メニスルニ非サルナリ

第二章

政府ノ職務

理財ノ論ニ於テ第一ニ著ルヘギ論題ハ如何ナルモノヲ以テ真
正ノ公用ト為スヤ又如何ナルモノヲ以テ真正ノ公費ト為スヤ
ト云フニアリ之レヲ要スルニ如何ナルモノヲ以テ政府ノ職務

ト為ス乎ト云フニアリ然リト虽モ此論題タル政治學ニ關スル
モノナレハ予輩ハ此事ニ付キ茲ニハ僅カニ二三ノ考説ヲ掲載
スルノミ

夫レ政府諸廳ヲ概シテ云フノ擔任セル職務ハ行政司法及ヒ海
陸軍ノカニ依テ以テ安寧ト正理トヲ保全スルニアリテ夫ノ州
郡邑ト次第ニ全國ヲ小分ニシ而シテ其種々ノ小政府ニテ大政
府ノ委任ヲ受ケテ諸務ヲ管スル所以ノモノハ即チ此安寧ト正
理トヲ保全スルノ目的ヲ達センカ為メナリ
此目的ヲ達セントスルニハ左ノ公費ヲ要スルハ正ニ是レ當然
ノ事ナリ

法律ヲ制定シ及ヒ此法律ノ實行セラル、ヤ否ヲ監察スル
ニ任セラレタル官府ニ要スル費用
此官府ニ於テ其命令ヲ行ハシメ且租稅ヲ徵收セシムル為メ

ニ使用スル種々ノ行政官府ニ要スル費用

人民ノ間ニ生ズル訴訟ヲ審判シ且ツ法律ヲ犯カス者ニ刑罰
ヲ命スルトニ任セラレタル官府ニ要スル費用
本國ノ獨立ヲ保護シ及ヒ立法官行政官及ヒ司法官ノ命令ヲ
國內ニ遵奉セシムル為メニ設ケラル、所ノ海陸軍ニ要スル
費用

右ノ立法行政司法及ヒ海陸軍ニ關スル政府ノ職務其編制ヲ賢
明ノモノト見做シ及ヒ是レニ要スル公費至當ノ制限アルモノ
ト見做シハ決テ批評スヘカラス蓋シ曾テ批評ヲ蒙リタルトナ
キ至正ノモノト云ヘシ

然リト虽モ其他ノ職務ニ至リテハ曾ツテ多少之レカ誹謗ヲ為
ヒニ者斯シトセス此職務ノ條目ヲ略舉スルト左ノ如シ

宗教

一

(其管理幫助僧侶ノ俸給寺院ノ保持其外)

教育

(其管理幫助諸學校ノ保持其外)

賑恤

(其管理貧病院養育院及ヒ其他ノ保持幫助金ノ分配事務ノ委任其外)

通路

道路

(道路運河其外ノ修繕建築)

其他ノ公同ノ工業

(溪堤ノ修築海岸ノ砂阜^{シユール}ヲ堅固ニスル棄濕地ノ放水其他記念標噴水井ノ修繕建築及ヒ裝飾健康等ノ為メニスル諸工業)

諸學術ノ獎勵

賞典

博物館

諸藝ノ學校書籍館博覽會

農工商ノ諸業航海ノ事業等ニ付キ貸與及ヒ幫助賞典禁制又ハ関稅ニ因ツテ施行スル或ル工業ノ保護

他ノ模範ト成ルヘキ製造所ノ設立

政府ノ專賣

(佛國ニ於テハ煙草火藥硝石等ハ政府ノ專賣品ナリ)

國祭及ヒ奢侈ニ屬スル裝飾

(一般ノ祭禮政府ノ費用ヲ以テスル種々ノ歡樂政府ノ施行セル裝飾)

指揮獎勵創立監察預防ヲ為スノ主意ヲ以テ人民ノ諸業ニ就テ政府ノ多少干預スル事

其他尚政府ノ舉行セル事務ノ條目ヲ詳細ニ登錄スレハ頗ル冗長ニ涉リ且ツ充分ニ掲載スルヲ得サルヲ以テ茲ニ之ヲ畧ス

長ニ涉リ且ツ充分ニ掲載スルヲ得サルヲ以テ茲ニ之ヲ畧ス

長ニ涉リ且ツ充分ニ掲載スルヲ得サルヲ以テ茲ニ之ヲ畧ス

長ニ涉リ且ツ充分ニ掲載スルヲ得サルヲ以テ茲ニ之ヲ畧ス

長ニ涉リ且ツ充分ニ掲載スルヲ得サルヲ以テ茲ニ之ヲ畧ス

長ニ涉リ且ツ充分ニ掲載スルヲ得サルヲ以テ茲ニ之ヲ畧ス

長ニ涉リ且ツ充分ニ掲載スルヲ得サルヲ以テ茲ニ之ヲ畧ス

長ニ涉リ且ツ充分ニ掲載スルヲ得サルヲ以テ茲ニ之ヲ畧ス

長ニ涉リ且ツ充分ニ掲載スルヲ得サルヲ以テ茲ニ之ヲ畧ス

長ニ涉リ且ツ充分ニ掲載スルヲ得サルヲ以テ茲ニ之ヲ畧ス

長ニ涉リ且ツ充分ニ掲載スルヲ得サルヲ以テ茲ニ之ヲ畧ス

長ニ涉リ且ツ充分ニ掲載スルヲ得サルヲ以テ茲ニ之ヲ畧ス

右ニ登録シタル政府ノ職務ニ付キ聊カ予輩ノ所見ヲ左ニ開陳
セントス但シ予輩カ所見ノ由ツテ生ズル所ノ理由ハ姑ク措
イテ論セス蓋シ之レヲ論セントスルニハ甚ク歧路ニ進入セサ
ルヘカラサルヲ以テナリ讀者幸ヒ之レヲ諒セヨ

總テ政府ハ宗教ノ事ニ干涉スルヲナク又僧徒ハ政府ノ暴政
ヲ訴フルヲナクシテ彼是相干涉セサルヲ要ス斯ノ如ク宗教
ノ事ヲシテ獨立自由ナラシムルニ於テハ古今ニ屢宗教ノ事
ヨリ發生セル擾乱ヲシテ其跡ヲ絶タシムルニ至ルヘシ
教育ノ事ニ於ルモ亦タ斯ノ如ク自由ナラシメ以テ漸次ニ一
家又ハ數家ノ結社ニ任セテ其設立ヲ自由ナラシムルヲ要ス
但シ貧民中ニ擴充セシムル為メ或ル初等ノ教育及ヒ學術
ヲ進歩セシムルカ為メニ必要ナル或ル上等ノ教育ニ就テハ
格外タリ

凡以賑恤ノ事タル其結果ハ常ニ其性質其設立方法及ヒ之レ
ヲ指揮スル人ニ從ツテ多少道德上ノ進歩ヲ妨碍シ人民ハ各
自ニ責任アルトト自己ノ貴重ナルトトヲ忘却シ又人民ノ安
非失徳及ヒ貧困ヲ醸成スルニ至ルモノナリ是ヲ以テ政府ノ
賑恤ハ猥リニ施行セスニテ能ク之レカ制限ヲ立テ殊ニ之レ
ヲ永久ノモノト為サスシテ只一時ノモノト為サハルヘカラ
ス斯ノ如ク為スト虽モ敢テ各人ノ他ヲ愛憐幫助シ以テ經文
ノ旨意ヲ實行スルノ情ヲ妨害スルヲナキモノナリ
通路ノ開設保存スル等ノ諸業ニ於テハ政府ハ其強半ヲシテ
各人ノ私業ニ委任シ而シテ政府ノ所業ハ只之レヲ監察スル
事ニノミ漸次ニ制限セサルベカラス
人民ノ諸業ニ於ケルモ亦タ上等ニ等シク之レヲ自由ナラシメ
サルヘカラス蓋シ政府ノ之レニ干涉スルモ曾ツテ此諸業ノ

為メニ成立セル種々多ク規則ヲ除キ且ツ之レカ障礙トナ
ルヘキモノヲ去リ以テ此諸業ニ関スル種々ノ弊害ヲ消滅セ
シメ特ニ公平安寧自由ヲ得セシムル為メニ非サルヨリハ毫
モ其功ナキモノナレハナリ何ヲ以テ然ルヤ曰ク政府ノ創業
勉勵指揮監察ノ方法ト人民ノ各其私業ニ於テ是等ノ事ヲ奉
行スルノ方法トニ就キ其巧拙ヲ比較セハ官業ノ常ニ私業ニ
及ハサルヲ以テナリ蓋シ是レ理ノ當然タルヘシ

右ニ陳述スル予輩ノ論說ハ皆大政府ニ関スルモノト虽モ亦夕
等シク地方ノ小政府ニモ適スルモノニシテ乃チ此小政府ノ職
掌モ亦夕斯ノ如ク宜シク之レカ制限ヲ立テ妄リニ人民ノ諸業
ニ干涉セハルヲ要ス否ラサレハ人民ノ私業ニ互ヒニ競争ヲ為
ス一能ハスシテ毫モ進歩スルコトナカルヘシ
都テ政府ニテ自ラ其職務ヲ愈多ク負擔スレハ隨テ政府ノ管理

スヘキ事務愈繁多トナリ隨ツテ官吏ノ員數及ヒ公費ハ倍增加
シ會計上ニ於テ太ヒニ困難ヲ生シ負債ハ倍增加シ隨テ租稅増
シ其用法漸ク不良トナリ而シテ租稅ノ浪費ト種々ノ惡風ト
ハ次第ニ行ハルニ至ルヘキハ贅セスシテ明白ナリ

政府ノ真正ノ職務ト政府ノ不條理ニ自ラ任スル職務トノ間ニ
判然區域ヲ立ルハ蓋シ是レ政治學上ノ議論ニ関スルモノニ
シテ經濟學上ニ於テ論究スヘキ所ニ非サルナリ然リト虽モ經
濟上ノ詳說ニ由テ此論題ノ又大イニ明瞭トナリタル所尠シト
セス實ニ經濟上ノ論說ノ有識者ノ腦裏ニ進入スルニ漸ク確實
明瞭ニ此區域ヲ定立シ得ルニ至リ隨ツテ人民政府トモニ諸事
ニ規則ヲ設ケ諸事ニ干涉シ諸事ヲ擔當スルカ如キ政府ノ事務
ヲ漸ク放棄シ以テ政府ノ職務ヲシテ本來政府ニ屬スヘキモノ
即チ社會ノ最大要用ノモノタル内外ノ安寧法律ノ公正平等ナ

1. 所有物及七宗教思想、勤勞、貿易、結社等ノ自由ヲ保護スル事
ノミニ限定スルニ至ルヘシ
凡ソ經濟家ノ論スル所皆其結局ハ政府ノ職務ヲ制限シテ人民
ノ勤勞ニ付テハ政府ノ之レニ干涉スヘカラサルモノトシ而シ
テ政府ノ職制ヲシテ軍簡ノモノト為ス^トニアリ是ヲ以テ彼等
ハ過度ニ管理スヘカラスト云フアルシヤンソシ^ト氏ノ言ヲ真正
ノ格言トナシ又ブイジオクラ^トト^ト黨ノ為サシメヨ行カシメヨ
ト云フ簡言ヲ大イニ稱賛セリ
彼等ノ論說ハ自ラソシアリスト^ト黨ノ排撃スル所ナリ何トナレ
ハソシアリスト^トノ論スル所ハ總テ政府ヲシテ諸般ノ事業ヲ管
理セシメ以テ人民ノ私業ヲ悉ク官業ニ換ヘ而シテ終イニ其私
業ヲ禁止スル^トニアルヲ以テナリ其他又中央集權^ト有司專權ヲ
可トスル論者ノ駁撃スル所タルヤ論ヲ俟タサルナリ此論者ハ

萬事ニ規則ヲ設ケ之レヲ管理シ之レヲ判決シ而シテ總テ人民
ノ檢査ヲ受クルナリ之レヲ舉行セ^ニトヲ欲スルモノヒアラス
ヤ

第三章

政府ノ會計豫算簿ニ登錄スル費用

方今各國政府ニ於テ要スル所ノ重要ナル費用ハ左ノ如シ

- 第一 國債及ヒ其他ノ負債ノ利子
- 第二 海陸軍ノ兵士軍用品、堡砦、軍艦、大炮、其他常備軍ニ要ス
ル諸物品ノ費用
- 第三 國政上ノ諸務ニ要スル費用即チ大政府、州、廳、邑、廳、事
務、警察、健康、裁判、禁遏、教育、賑恤、外國交際、道路、公業、耕作、
製造、貿易、美術、其他諸官省ニ分任セラル、諸務ノ費用
諸官省ノ管スル所ノ事務ハ國ニ因リテ大イニ異同ア

右に掲載スル諸務中ニ官吏ノ直チニ管理スル所ノ諸業計多アリ此業ハ概テ其得ル所ノモノヲ以テ其費スル所ノモノヲ補フ能ハサルモノニシテ其不足ハ即チ官財ヲ以テ支給セサルヘカラス此業ハ假令ハ許多ノ學校設立道路一部分ノ開設陸路ヲ云官林官有地ノ培養開拓温泉場セーブルノ磁器製造所ヘレーンノ敷物製造所電信官板インドレーノ造船所武器火藥烟草紙牌等ノ製造牧馬場等ノ如キ是レナリ其他尚政府ノ幫助金賞典金利子ノ保証會社ノ相當ノ利潤ナキヲ以テ其株主等ニ利子ヲ拂スルトラ係証等得サル所ハ政府ニテ該會社ニ代リテ之レヲ下付スルトラ云フ等ヲ與フル所ノ技術文學學術農工商運輸等ニ関スル諸業モ亦多アリ

佛國ニ於テハ政府ノ奉行スル諸業ハ斯ノ如ク許多アリテ費用モ亦多随ツテ數種アリト虽モ諸國ノ會計豫算簿ヲ閱スルニ亦

夕概テ斯ノ如キ數種ノ費用アルヲ發見セリ然リト虽モ英國及ト合衆國ニ於テハ獨リ斯ノ如ク許多ノ事業ヲ奉行セス随ツテ亦多斯ノ如キ數種ノ費用ナキヲ以テ他諸國トハ大ニ異ナル所アリ實ニ斯ノ如キ數種ノ費用アルハ其政府ノ所為タル萬事ニ干預シ人民ノ奉行スル所ヲ政府一途ニ帰セントシテ人民ノ私業ヲ妨害スルモノナリト云フ徵候ナリ

各國ノ大政府ノ會計豫算簿ハ就テ認知スル所ノモノハ其各地地方ノ會計豫算簿中ニモ亦等シク是レアルヲ以テ各國ノ賞額ヲ計較セニハ其大政府ノ會計豫算簿ヲ以テ足レリトスルカ如シト虽モ之ヲ詳密ニ計較セントスルニハ即チ先ツ佛國ニ在リテハ大政府各州各邑ノ總經費ヲ合算セサルヘカラス英國ニ在リテハ大政府各州合衆國ニ在リテハ各聯邦各邑ノ總經費ヲ合算セサルヘカラス其他ニ於テモ亦多斯ノ如シ是レ則チ各國

人民ノ負擔スル所ノ國費ヲシテ計較シ難カラシムル所以ナリ
其他尚ホ此計較ヲ難カラシムルモノハ稅額ノ多寡ト舉行シタ
ル公務ノ多少ト人民ノ貧富ノ度ト此三者ヲ同時ニ考量セサル
可ラサルコトニアリ

凡ソ國費ハ國ニ從ツテ悉ク差等アリト虽モ諸國ノ會計豫算簿
中歳出ノ部ニハ國債ノ利子ト海陸軍ノ為メニ要スル費用トノ
最上地位ヲ占ムルハ皆同一轍ナリ蓋シ其國債ノ強半ハ概子軍
事ニ胚胎セリ

今ヲ去ル十年以來(其前四十年間世界太平無事タリ)佛英米(此三
國ハ方今ノ文明ノ模範タリ)及ヒ普澳(此二國ハ恰モ一小歐羅巴
ヲ成スカ如キ羅西亞ヲ除ク)外佛國ニ次テ歐州ノ最上ノ強盛
國タリ)ノ歳出額ニ眼ヲ注クニ左ノ事實ヲ發見シタリ
英國ニ於テハ國債ノ利子ニ供スル金額ハ其歳出額ノ半ニ過

キ而シテ海陸軍ニ供スルモノハ其残り金額ノ七分ノ四ニ至
ル

佛國ニ於テハ國債ノ利子ニ供スル金額ハ其歳出額ノ殆ニト
三分ノ一ニシテ海陸軍ニ供スルモノハ其残り金額ノ三分ノ
一ニ至ル

米國(合衆國)ニ於テハ國債ノ利子ニ供スル金額ハ其歳出額ノ
四分ノ一ニ過キ海陸軍ニ供スルモノハ殆ニト其半ニ至ル
普國ニ於テハ國債ノ利子ニ供スル金額ハ其歳出額ノ三分ノ
一海陸軍ニ供スルモノハ其四分ノ一ニ過ク

澳國ニ於テハ國債ノ利子ニ供スル金額ハ其歳出額ノ五分ノ
一海陸軍ニ供スルモノハ其残り金額ノ五分ノ四ニ至ル
右ノ比例ハ千八百年代中ニアリテハ甚タ允當ノモノナリシカ
其後殺氣漸ク歐州ニ再發シ各國大イニ武備ヲ増シ又同時ニ合

衆國ニ於テモ内乱ノ爲メニ大イニ兵ヲ募リシテ以テ此比例ハ
永續セザリキ

第四章

公費ノ有益ノ度ヲ論ス 附公費ニ関スル謬説

夫レ公費ハ公債ニ供スルモノヲ除クノ外多クハ内外ノ安寧ヲ
保全シテ以テ人身ト其所有物トヲ保護(此保護ヲ為スニハ行政
海陸軍司法ノカラ要スルヲ為メニ之レヲ支消スルモノナレハ
此公費ノ有益ノ度ヲ測知スルニハ此安寧ヲ受クルノ厚薄ヲ以
テスヘキナリ蓋シ此安寧ハ外國交際富饒人心ノ勉業人心ノ靜
穩ノ情状ト相関係スルモノナリ
然リト虽モ右ノ外國交際富饒人心ノ勉業人心ノ靜穩ノ情状ヲ
推測スルニハ互ヒニ偏重ナリ易キ意思ト道理トノ二者ヲ以テ
セザルヘカラス

茲ニ又甚々困難ナル一論題アリ即チ或ル公費ノ有益ノ多少ヲ
測度スルノ手段ヲ確定スル可シ是レナリ蓋シ此論題ハ公業(公同
裨益ノ工業ト稱スル運河道路鐵道等ヲ開設スル工業ヲ云フ)ノ
費用ニ関シテハ之レヲ明解スル甚々難シ就中裝飾ニ関スル工
業ノ費用ニ就テハ尚一層難キモノナリ其他此論題ハ計算并ニ
利益上ニ就テハ之レヲ解キ得サルコトアルモ意思又ハ情欲ノ上
ニ就テハ之レヲ解キ得ルコト尠シトセス

凡ソ公費ノ裨益メ有無ニ関シテハ殊ニ種々ノ謬説ノ見ハル、
ノ最モ著シキモノナリ今其例ヲ挙ケテ云ハニ或人曰ク公費
ハ其主意ト其性質トノ如何ヲ問ハス且實益ノ生セサルヲ論セ
ス總テ融通ヲ助ケ物産ヲ殖ニ而シテ貿易ヲ盛ニナラシムルモ
ノナリト
然リト虽モコレデリツバニチアトト氏ノ言ヘル如ク公費ハ人

ノ見ル所ノモノト見^可ラサル所ノモノト人二者ヲ生セシム
ルモノナリ其見ル所ノモノトハ即チ融通購求諸業ノ發生及ヒ
種々ノ影響是レナリ又其見ル可^ラサル所ノモノトハ即チ人民
ノ税金ヲ得ルカ為メニ更ニ為ス所ノ勞苦省畧及ヒ税金ノ總額
ニ從ツテ物産流出額減少スル^一何トナレハ公費ハ人民ノ費額
ヲシテ此公費ノ總額ニ應シテ減少セシムルヲ以テナリ是レナ
リ然リ而シテ其見ルヘカラサル所ノモノニ着意セスニテ只其
見ル所ノモノ、ミニ着意シ以テ公費ハ融通ヲ助ケ諸業ヲ興サ
シムルモノト論決セハ其結果ハ乃チ國祭ヲ盛大ニシ人民ノ艱
難ナル時ニ於テ不急ノ公業併テ無益ノ公業ヲ興立シ公私ノ所
有物ヲ破滅シテ更ニ之レヲ建築シ又ハ或ル官吏ノ俸給ヲ過度
ニ増加セントスルニ至ルヘシ實ニ此等ノ事ハ人民ヲシテ重税
ヲ負擔セシメ政府ヲシテ無教ノ難事ニ遭遇セシムルモノナリ

夫ノ國祭ナルモノ、費用ハ經濟上ノ道理ヲ以テスル所ハ之レ
ヲ正當ノモノト做ス^一能ハサルモノニシテ唯人民ノ或ル感動
ヲ起シ又或ル歡樂ヲ得セシムルト云フカ如キ便利上ニ就テノ
論マル所ニ非レハ至當ノモノト做スヲ得サルモノナリ其經
濟上ノ道理ヲ以テスル所ハ之レヲ至當ノモノト為ス^一ヲ得サ
ル所以ノモノハ蓋シ經濟上ニ於テハ先ツ前ニ論ミタル夫ノ見
ル所ノ小益ノ側ラニ視ルヘカラサル所ノ大害ヲ布列スヘシ假
令ハ國祭ノ為メニ手袋ヲ購求シ或ハ其子ノ健康ニ必要ナル柔
毛靴足袋或ハ其教育ニ必用ナル書籍ヲ購求スル^一ヲ妨ケラ
レ又ハ資本金ヲ渴望スル所ノ債主ニ其負債ヲ償却スルヲ怠ル
カ如キ事アルヲ揚言スルヲ以テナリ
此國祭ヲ有益ノモノト誤認スル^一ハ天イニ世上ニ傳播シ而シ
テ人心ノ動搖ニ由テ發生セル一般ノ怠慢ノ如キ國難アル時ニ

於テハ國祭ハ工業ヲ鼓勵シ勤勞ヲ勸興シ而シテ此國難ヲ挽回
スルノ一大功カアル良藥ナリト妄信スルノ甚クニ至レリ
政務ニ関セル人ハ右ノ如キ謬説ヲ信シテ國祭ハ諸業ヲ獎勵シ
人心ヲ靜穩ナラシムルモノト做シ或ハ國祭ノ為メニ得ル所ノ
私利アルヲ以テ國ノ困難ナル時ニ於テハ屢國祭ヲ執行スル
アリ實ニ國祭ハ諸業ヲ獎勵シ人心ヲ靜ムルモノナレハ是レカ
為メニ要スル所ノ費用ハ寔ニ數フルニ足ラサルモノナリ然リ
ト虽モ國祭ハ人心ヲ靜ムルヨリモ反ツテ之レヲ動カシ又或ル
業ヲ外面ノミ盛大ナラシムルト虽モ他ノ諸業ヲ妨害スルモノ
ナリ故ニ曰ク國祭ハ社會ノ眞ノ損失ヲ招クモノナリ
國祭ヲシテ經濟上ニテ希望スル所ニ適セシメ而シテ國ノ隆盛
ノ結果ニシテ且原因ヲ消シムル為メニハ人民富饒ニシテ其要
用ヲ缺クヲ無クシテ而シテ人民自ラ之レヲ催ラシテ政府ハ之

レヲ行ハサランヲ要ス實ニ人民ノ情狀斯ノ如クナルハ各自
ニ或ル祝日ニハ歡樂ヲナシ此各個ノ歡樂相集合セハ是レ則チ
眞ノ國祭ト成ル此ニ至リテ始メテ邑會ニ於テ國祭ノ費用ヲ適
宜ニ確定スヘキナリ蓋シ是レ最良ノ方法ナリ然リト虽モ其費
用ハ該邑ノ總費ノ一小部分ヲ超過スヘカラサルヲ要ス是レカ
為メニハ此邑會ヲシテ巨額ノ祭費ヲ興スハ即チ人民ノ繁昌ト
國ノ永譽トヲ致スモノナリト妄信スルカ如キ誤解ナカラシメ
サル可ラス
予輩カ今上ニ陳述セル所ノ國祭費用ニ関スル種々ノ謬説ハ亦
公同工業ノ費用ニ付テモ等シク之レヲ適用シ妄リニ公業ヲ興
サントスルノ論者アリ實ニ政府ニテ勤勞スルノ業ナク賃銀ヲ
受クルノ道ナリ且ソ國安ヲ害スヘキ貧者ヲ救助スルヲ要スル
時ニ當リ屢公業ヲ興シテアリ斯ノ如キ際ニ於テハ寔ニ政府

八種ノ方法ヲ以テレカ救助ヲ為サ、ル可ラス此方法中ニハ殊ニ多少思慮アル公業ヲ興シ以テ貸銀ヲ與フルノ方法ヲ要ス蓋シ是レ最良ノ方法タリ然リト虽モ夫ノ繆説ヲ信シテ妄リニ之レヲ興スナク且此救助ヲ受ケタル人ヲシテ此救助ハ社會一般ノ損失タルヲ能ク覺悟セシムルヲ要ス今官吏ヲシテ今興起セル所ノ公業ハ必用ナラサルモノナリ且又此公業ハ由ツテ生スル所ハ其費ス所ニ及ハサルト虽モ總テ公業ハ貿易ヲ盛ニナラシムルモノナリト誤認スルヲ勿ラシムルヲ要ス何トナレハ若シ官吏カ斯克ノ如キ繆説ヲ確信セハ則チ人民ノ艱難スル時ニ於テハ現今ニ要スルヨリモ多分ニ工業ヲ興シ以テ徒ラニ巨額ノ財本ト巨多ノ人カトヲ費スニ至ルヘキヲ以テナク加之若シ斯ノ如クナラシメハ其結果ハ斯ノ如キ工業是等ノ工業ニ於テハ其指揮ト管理ト自ラ充分ナラサルモノナリニ

用井ラル、所ノスハ或ヒハ不徳急情放蕩ヲ行ヒ或ヒハ種々ノ惡業ヲ企ツルニ至ルヘシ、嘗以テ「五フバスタア」氏言ヘル「アリ曰ク嚴寒ノ時賤民ノ困苦スルニ當リテハ唯一時右ノ如ク工業ヲ興シ以テ之レヲ救助スルハ則チ多少ノ損失ハアリト虽モ平日ニ舉行スヘキ工業ヲ此ノ難時ニ於テ前以テ舉行シ置クモノト云ヘシ然リト虽モ毎常之レヲ救助スルハ寔ニ惑ヘルノ甚タシキモノナリ蓋シ其人目ニ觸ル、所ノ獎勵スルノ益ハ僅少ニシテ其人目ニ觸レサル所ノ業ヲ妨碍スルノ害許多ナルヲ以テナリト政府ヲシテ裝飾等ニ関スル工業或ハ有益ノ工業ト虽モ必要ノ度ヲ失スル工業ヲ徒ラニ興サシムルハ即チ上ニ陳述シ来リタル公業ニ関スル種々ノ繆説ノ致ス所ナリ試ニ論者ニ謂フテ、斯ノ如キ工業ニ就キ便利ト有益ノ點

ヨリ拘出シ得ハキ好^ト理^アラハカヲ竭シテ之レヲ保庇スヘシ
予輩ノ敢テ問ハサル所ナリ然レ氏政府ニ工夫ノ為メニ斯ノ如
キ工業ヲ興ス^トラ懲^ト息^スヘカラス何トナレハ政府ニテ是等ノ
業ヲ盛興セハ工夫ハ一工場ニ集^ルヲ以テ他ノ諸業ハ自ラ
衰微^シ且ツ其業ノ費用ハ他ノ諸業ニ由テ支給セラル、モノナ
レハナリ

凡ソ公業ハ一方ニ利アルモ必ス又一方ニ害アルモノナレハ之
レヲ興立スルニ當リ能ク之レカ利害得失ヲ考計セサルヘカラ
ス試ミニ今一街衢ノ模様ヲ改造スルヲ取リ之レヲ譬ヘニ
此改造ハ實ニ通行又ハ健康等ニ必要ナルヲアルヘシ然リト虽
モ此改造ノ美^麗ト便利ノミニ心醉シテ輕^辛ニ之レヲ決行スル
ヲナク先ツ此改造ハ真ニ必要ナルヤ否ヲ審査シ又之レ為メニ
破却サレタル所有物ノ估價ト之レカタメニ要スル財本^{此財本}

ハ他ノ私業ニ夫レ丈々缺乏ヲ生セシムノ巨額ト考計シ又家
屋等ヲ破毀スル為メニ生スル人民ノ損失工夫ノ一工場ニ集^聚
スルノ不便此公業ノ為メニ募ルヘキ公債及ヒ之レヲ償却スル
為メニ談府内ニ更ニ或ル一稅^{假令ハ入府稅}ヲ設立シ置クヲ要
スル年月ヲ審考セサルヘカラザルカ如シ

又巨多ノ俸給補助金等ヲ可トスル論者ハ皆上ニ陳述セル所ノ
謬說ヲ信スルカ故ナリ

ウボルト^ル氏言ヘル^トアリ曰ク英國王ハ每歲百萬磅^ヲ費ス
モ此金額ハ復タ其國民ノ手ニ再歸スルモノナリト是レニ由テ
之レヲ觀レハ斯ノ如キ大家ニテモ尚此謬說ヲ信シタリト言ハ
サル可ラス實ニ英國王ハ報酬ヲ與ヘスニテ此金額ヲ領収スル
ヲ以テ之レヲ其國民ニ與フル片モ亦等シク報酬ヲ受ケサレハ
ウボルト^ル氏ノ言^{如ク}誠ニ然リ然リト虽モ之レヲ與フル

片ハ必ス報酬ヲ受サシメテ即チ他物ト交換スルモノナレハ
大ニ氏ノ考フル所ト事實異ナルニ非スヤ
予輩ハ今茲ニ高位有司ノ俸給ニ就キテハ之レカ辨論ヲ為スラ
欲セサル所ナリ蓋シ俸給ノ額ヲ定ムルハ種々ノ思想ニ基ツク
モノニシテ獨リ經濟上ノ思想ノミヲ以テ之レカ多少ヲ計考ス
ヘキモノニ非ス故ニ政府ニ賢明君子ヲ登用シ或ヒハ招待スル
為メニ政務ノ輕重ニ應シテ俸給ヲ與フルハ至當ニシテ且便利
ナリト云フカ如キ思想ヲ以テ亦之レヲ計考シ得ヘキナリ只
茲ニ予輩カ一言セント欲スルモトアリ納稅者カ俸給ヲ納ムル
代リニ復タ是レニ由ツテ相當ノ利益ヲ得ルヲ以テ此俸給ハ幾
許増加スル氏決シテ其當ヲ失スルヲナキモノト大イニ誤解ス
ル論者アリト云フ即チ是レナリ今之レヲ詳言セハ即チ許多
ノ俸給ハ商業ヲ盛ニナラシムル氏之レヲ納ムル人ノ歲入額ハ

之レニ應シテ減少シ随ツテ其支消額モ亦タ減少シ而シテ終イ
ニ彼等各々自然ニ工商業ニ與フヘキ獎勵モ亦タ随ツテ衰微ス
ルモノタルヲ認了セスシテ妄リニ俸給ヲ増加セントスルノ
誤解論者アリト云フニアリ
斯ノ如キ謬說ヲ妄信スルニ於テハ浪費強奪及ヒ竊盜ト虽正
當ノモノト見做スヘシ譬ヘハ口ベルハミルトン氏カ言ヘル如
ク或ル商賈ノ貨幣ヲ盜ミ而シテ此貨幣ヲ以テ此商賈ノ商品ヲ
購求シ以テ其商業ヲ獎勵スルカ如キ盜賊ノ行ヒラシテ有益ノ
モノト看做ニ至ルヘシ
凡ソ下民ノ艱難スル時ニ際シ記念ノ為メニ設ケシ所ノ建物ヲ
改造シ及ヒ公私ノ所有物ヲ破却シ之レヲ新築スルヲ必要トシ
且至當ノ事ト思考スルハ皆右ノ如キ謬說ノ然ラシムル所ナリ
此謬說ヲ主張スル論者予輩ノ持論ニ屢左ノ答辯ヲ為シタリ

曰ク是等ノ事ハ皆工^業ヲ授ケ且ツ曾^テ不景氣ナリシ商
業^ヲ盛ニナラシムルモノナレハ何ソ是等ノ事ヲシテ大害アル
モノト為サニヤト

然リト虽モ物ノ真理ヲ能ク辯識シタル人ハ此論者ノ言ヲシテ
至當ノモノトハ看做サ、ルヘシ

故人ノセーニシヤマ^ニ氏ハ常ニ經濟上ハ真ノ理論ニ相反セ
ル説ヲ主張シ而シテ經濟家ノ一言以テ駁撃スルヲ得ヘキ種
ノ謬説ヲ信用スル論者中ノ一人ナリハ經濟論ト題セル著書中
ニ左ノ如ク言ヘリ

予ハ[「]ジ[」]セ[」]フ[」]ガルニエ[」]氏ニ答ヘテ曰ハシ[」]ウ[」]ホルテ[」]此[」]氏
ノ論ハ決テ謬誤ニアラサルナリ蓋シ英國王ハ報酬ヲ與ヘス
ニテ徒タニ領收スル所ノ金額ヲ其國民ニ與フル片ハ寔ニ[「]ジ
セ[」]ト[」]フ[」]カルニエ[」]氏ノ言ヒシ如ク必ラス他物ト交換スルモノ

ト虽モ若シ此物タル甚タシキ奢侈ニ屬スル者ニシテ獨リ國
王ノ如キ貴人ニ非サレハ之レヲ使用スル者ナカルヘシト云
フ片ハ恐ラクハ此物ノ估價ハ決シテナカルヘキヲ英國王ハ
之レヲ創造スルモノト云フヘシ然ラハ則チ英國王ハ報酬ヲ
與ヘスニ徒タニ領收セシモノ亦タ其國民ニ報酬ヲ受ケス
ニテ與フルト一般ナラスヤ又「ハミルト[」]ニ氏ノ説ハ巧妙ニシ
テ且明瞭ト云フヘシ然レモ實際ニ於テハ「ハミルト[」]ニ氏ノ言
フ所ノモノト大イニ齟齬スル所アリ蓋シ高貴ノ其商品ヲ國
王ニ販賣シテ以テ得ル所ノ價ハ曩キニ之レヲ居償セシ時ノ
價ヨリモ甚タ大イニシテ此商品ニ就キテ納ムル所ノ稅額丈
ケノ利益ハ充分ニ占得スルモノナレハナリ「ハミルト[」]ニ氏ノ
説ハ同氏ノ國債論ト題セル書ニ就テ見ルヘシ
予輩ハ又之レニ答ヘ[「]由[」]ハ[」]シ夫[」]レ國王ハ行政權ノ主長タルヲ

以テ重要ノ公務ヲ司リ而シテ其公務ト地位トニ相當ノ賃銀
ヲ領収スルハ當然ノ事ニシテ敢テ論議スヘキ所ニ非サルナリ
然レ氏今茲ニ論議セント欲スル所ハ即チ國王ノ其公務ト地位
トニ相當ナル賃銀ノ外ニ報酬ヲ與フルヲナク徒タニ彼ノ商業
ヲ盛ンナラシメ且ツ甚シキ奢侈ニ屬スル物品ノ製造ヲ興起ス
ル為メトシテ收領スル所ノモノニアリ却テ國王ノ其相當ノ賃
銀外ニ收領スル所ノモノハ夫ノ奢侈品ノ製造ヲ興ガシムルモ
又夫レ丈ケ他ノ製造ヲ衰ヘシムルモノナリ是レ則チ「バ」スチア
「山」氏ノ言ヘル如ク人ノ見ル所ノ蓋少クシテ見ルヘカラサル所
ノ害大イナルモノト云フヘシ又「ハ」モルト「シ」氏ノ言ヘル商賈カ
縦令セ「シ」ニシヤマ「シ」氏ノ言ヘル如ク其商品ヲ販賣シテ得ル所
ノ價ヒハ曩キニ之レヲ居債セシ時ノ價ヨリモ甚ク大イニシテ
其買直ハ其賣直ノ一小分ナリシモ此一小分丈ケハ即チ徒タニ

收奪セラレト云フヘシ凡ソ人ノ物ヲ收奪スルモ僅少ナルハ
敢テ害ナシト云フ「フ」ヲ得ヘキヤ

第五章

公債ノ使用法

往時ニ於テハ公債ハ概テ種々ノ浪費及ヒ軍費ヲ補充スル「フ」ニ
供セシモノナリ
千七百年代ノ末及ヒ千八百年代ノ始メニ當リテ諸國政府ノ大
イニ公債ヲ募集セシハ多クハ軍費ヲ補充セシカ為メナリ總テ
政府ノ始メテ之レヲ募集スルヤ必ス平時ニ節儉ヲ行ヒ以テ之
レヲ償却セント思考スルモノト雖モ曾ツテ徴スルニ禍氣去リ
テ平穩ニ歸スルモ尚公債ハ永存シ却テ恰モ雪塊ノ旋轉スルカ
如ク倍増加シ人ヲシテ雪塊ヲ熔解スヘキ程ノ猛烈ナル一大陽

ラ着出サントスルノ~~論~~絶タシムルカ如キニ至レリ
一國ハ尚一人ニ於ケルカ如ク若シ公債ヲ募ル~~ト~~ハ其習慣トナ
リ且ツ容易ノ~~ト~~トナリタラニハ輕辛ニ物ニ感動シテ能ク之
レカ正否ヲ判タサス徒ラニ無益ノ費用ヲ興ス~~ト~~勘シトセス蓋
シ其初メハ斯クノ如ク無謀ニ費用ヲ興シ后ニ其無益ナルヲ覺
悟スルモ尚頑固ニシテ其事ヲ遂ケントシ官吏ハ其中ニアリテ
私利ヲ謀リ威權ヲ恣ニス是レカ為メニ國債ハ年毎ニ漸ク増重
スルニ至ルヘシ此時ニ當リテ各顯官ハ皆~~ト~~氏ノ如ク言
ヘリ曰ク予カ後チニハ大洪水アリト是ニ由テ之レヲ觀レハ
彼等ハ此洪水ヲ豫防セント欲セシモ其意ヲ遂クル能ハサレハ
乃チ之レカ念ヲ絶テ以テ已レカ職ヲ尽シタリト信用スルモノ
ナリ~~ト~~ト云フヘシ~~ト~~ト云フヘシ
往昔ト現今トノ公債使用法ヲ觀察シテ之レヲ概言セハ往昔ハ

無益ノ事ニ支消スル為メニ公債ヲ募リタリト云フヘシ
今茲ニ論スヘキモノハ戰時ニ募集スル公債ハ甚ク痛歎スヘキ
結果ヲ來スモ平時ニ募集スル公債ハ好結果ヲ來タスヘキモノ
ナルヤ否ヲ考究スルニアリ夫レ平時ニ於テハ政府ノ公債ヲ募
ルハ概テ土地ヲ豊饒ニシ或ヒハ道路ヲ改造スルカ為メヨリ外
ナカラルヘシ然リ而シテ是等ノ事ニ公債ヲ使用スルニ於テハ
之レヲシテ有益ノモノタラシムルハ他事ニ之レヲ使用スル~~ト~~
ヨリモ一層容易ノ業タルヲ照ミタリ
實ニ方今諸國政府カ千八百年代ノ始メ以來公債ヲ募リテ以テ
許多ノ公業殊ニ道路開設ノ公業ヲ興起セサルモノハ殆ント之
レナキナリ然リト虽モ曾ツテ立法官及ヒ行政官ハ充分ニ興ス
ヘキ理由ナク或ハ屢無益ニ屬シ或ハ私業ヲ以テセハ大イニ費
用ヲ省キ且ツ正當ニ~~行~~行シ得ヘキ興業ヲ興シ以テ當今及ヒ將

来ノ納稅者ノ財ヲ徒ニ費スニ至リタリ此ニ於テカ先ツ政府ノ職掌ヲ定ムルノ一論題ヲ發スニ後チ現今ノ人民カ興シ得ヘキ公業ハ如何ナルモノナルヤ又現今ノ人民ノ將來ノ人民ニ租稅ヲ余スル(國債ヲ募リテ或ル公業ヲ興セハ必ス此國債ハ後年ニ贈遺セラル、ヲ以テ即チ現今ノ人民負債ヲ作リテ將來ノ人民ニ之レヲ償却セシムルモノト云ヘシ)ノ權理ハ何處ニ停止スルヤノ論題ヲ發スヘキナリ然レモ是等ノ論題ニ就テハ予輩ハ既ニ論述セシヲ以テ今茲ニ陳述セント欲スル所ハ只此論ノ結局ヲ為スニアリ

孰考フルニ凡ソ政府ニハ敵ノ攻襲ヲ逐撃シ國難ヲ挽回シ不直ヲ矯正シ前政府ノ作為セシ國債ヲ償却スルカ為メニ要スル公債ノ外決シテ公債ヲ募ルトニ就テノ真正ナル理由ヲキモノナリ何トナレハ公債ノ利子ハ租稅ヲ増重セシ租稅ハ先ツ納稅者

ヲ窮乏セシメ後チ物價ヲ騰貴セシメ是カ為メニ物産ノ支消者ハ之レヲ支消スルヲ得サルニ至ルヘキヲ以テナリ是ニ由テ之レヲ觀レハ公債ハ物産ト其支消トヲ妨害シ以テ民ノ艱難ヲ永久ニ醸成スルノ一原因タリ(但公債ノ其他社會ニ種々ノ弊害ヲ来ス)ハ茲ニハ措イテ論セサルモ其害タルヤ尚斯ノ如シ

予輩ハ此事ニ就テハ復タ後篇ニ再論スヘシ州郡及ヒ邑ニ於ケルモ亦タ現今ノ人民ハ勿論將來ノ人民モ尚其益ヲ蒙ムルヘク且ツ之レニ由テ其費用ノ幾分ヲ亦タ此將來ノ人民ニ負ハシムルヲ得ヘキ公業ヲ興ス為メニ真正ナル公債ヲ募ルノ原因歟トセス斯ノ如キ公業ハ道路橋梁海港會場街衢市場裁判所獄舎噴水井汚水道堤防等ノ造營即チ是ナリ然リト虽モ今ノ代議者タルモノハ是等ノ公業ニ據リテ後人ニ蒙ラシムル所ノ便益甚タ重大ノモノト為サハルヲ要ス蓋シ

斯ノ如キハ其費用ヲシテ後人ニ負ハシムル所モ亦タ重大ナ
ラジムルヲ以テナリ抑今ノ代議者タルモノハ先ツ此便益ノ存
スル年月ヲ計考シ且ツ此公業ヲ興ス為メニ募リタル公債ノ償
却期限ヲ程度ニ制定セサルヘカラス否ラサレハ妄リニ後人ニ
其受クル所ノ便益ヨリモ居多ノ費用ヲ贈遺スルニ至ルヘシ且
ツ其公業タル五十年或ハ二十五年ノ後ニハ人民大ニニ進歩シ
テ之レヲ無用物トナシ以テ前者ノ過失ヲ訴フルノ恐レナシト
云フヘカラス

第二十篇

理財上ノ改革附歳出ヲ減少スル事及ヒ歳入ヲ増加ス
ル事

夫レ理財上ノ改革タルヤ其目的トスル処ハ即チ國帑ノ不足ヲ
生ヤシメサルヲ(不足ノ生スルハ例外ノ事トナスト雖モ諸國ノ
理財上ニ於テ最モ多ク之レアルヲナリ)租税ヲ輕少ナラシムル
一賦税法ニ不公平ナカラシムル一時勢又ハ立法者ノ無智ニ因
テ生スル所ノ租税強取及ヒ其他ノ惡風ヲ洗除スルニアリ其
他尚ホ租税ノ設立法ヲ更正シ理財ノ事務行法ヲ簡易ニシ公費
ヲ省減シ即チ公財ノ用法ヲシテ最良ナラシメ常ニ行政及ヒ理
財上ノ更正ヲ奉行シ以テ歳入ヲ増加スルニアリ
予輩既ニ第十三篇ニ於テ租税ノ賦課法ヲシテ可及納公帑善良
ナラシメケル為メノ緊要ナル規則ヲ陳列シ且各種ノ租税ニ就テ

詳細ニ之レヲ論究シ又第十九篇ニ於テ公財ノ良用法ニ就テモ
亦々等シク之レヲ論悉シタリ故ニ今予輩ノ論セント欲スル所
ノモノハ只行政及ヒ理財上ノ職務ヲ簡易ニシ以テ國ノ費額ヲ
減少シ入額増加スルノ一事ニアルノミ蓋シ行政及ヒ理財上ノ
職務ヲレテ簡易ナラシムルトノ有益タルヤ贅セスレテ明瞭ナ
リ

第一章

公費ヲ減少スル事

夫レ政府ノ職務ヲ其本来ノ区域内ニ挽回シ政府ニテ繁冗ノ條
例ヲ設ケ萬事ヲ管理スルノ方法ヲ廢立シ之ヲ概言スレハ都テ
政府ノ職務ヲ簡易ニシ且濶大ナル各種ノ諸務ニ絶ヘス進入シ
而シテ茲ニ永存スル所ノ惡風ヲ終ニ洗除シテ以テ公費ヲ減少
スルヲ得ベキナリ然レモ斯ク如キ改革ハ人民ノ諸業ノ為メニ

ハ大ニ便益ナルモノニシテ仮令保護スルノ旨意ヲ以テスル時
ニ於ケルモ政府ハ人民ノ諸業ニ干預スル愈ク多シテ及テ衰微
ニ赴クモノナルヲ以テナリ且富財ノ増殖人心ノ靜穩政府ノ維
持ヲ為メニハ實ニ必要ナルモノト雖モ公費ヲ著シク減少スル
カ為メノ理財上ノ手段ニハ非サルナリ何トナレハ試ニ諸國ノ
會計豫算簿ヲ閱スルニ國債ト軍事トニ要スル費用ヲ除クヤハ
他ノ諸務ニ要スル費用及ヒ官吏ノ俸給ハ甚々僅少ナルモノナ
レハ此國債ト軍事トニ要スル巨費ヲ減少スルニ非サレハ著シ
ク公費ヲ減少スヘカラサルヲ以テナリ
却テ此國債一條ニ就テモ亦々有益ノ改革ヲ舉行シテ以テ其利
子ヲ減少或ハ巧ミナル償却法ヲ以テ其母金ヲ減少スルヲ得
ヘキナリ

然リト雖モ歐洲諸國ノ公費中ニ於テ之レヲ省減センカ為メノ

改革ヲ養行スルニ就テ最モ困難ナル一公費アリ即チ海陸軍ニ
要スル公費是レナリ。方今海陸軍ノ制タル蓋シ卒世ニ於テ尚ホ
兵ヲ備ヘ置クモノト雖モ平時ニハ之レヲ解散スルノ制ニ変更
スル一能ハサルニ非サルベシ。

今マ予輩人民ハ千八百十五年ノ一大葛藤アリシ以來既ニ四十
年ヲ経過シ人民ノ諸業ハ大ニ進歩シ以テ各國交際ノ景況ニ因
テ著シク之レカ影響ヲ被ムルカ如キニ至リタレハ若シ此ノ國
ト彼ノ國トノ間ニ戦争ノ起ルヲアラハ知ラス是レカ為メニ甚
タ困難ヲ極ムル者幾許ナルヤヲ其他又戦争ノ道德上ニ害アル
勝劣數フヘカラサルナリ是レヲ以テ各國ノ上官有司ハ互ニ同
時ニ海陸軍ヲ解散スルノ計畫ヲ為サ、ルヘカラス且為シ得サ
ルヲナカルヘシト思考スルモ敢テ妄想ニハ非サルヘシト予輩
ハ信シテ疑ハサル所ナリ若シ實ニ諸國ニテ各々内患ヲ豫防ス

ル為メニ要スル兵ノミヲ備ヘ置クモノトナサハ則チ各國ノ兵
ハ皆一樣ニ減少スルヲ以テ決シテ其獨立ノ危キヲナカルヘキ
ナリ

第二章

歳入ヲ増加スル事

若シ今歳出ノ省減ハ之レヲ行フ一能ハスト假想セハ則チ歳入
ノ不足又ハ臨時歳出ヲ補足スル為メニハ唯ク歳入ヲ増加スル
ノ一手段アルノミ蓋シ歳入ヲ増加スルニ二様ノ方法アリ公債
ヲ募集スル一及ヒ租税ノ入額ヲシテ增多ナラシムル一即チ是
レナリ其公債ヲ募集スルノ方法ハ甚タ便宜ニシテ且容易ナル
モノナレハ概テ諸國ニテ曾々及シク之レヲ執行シ又凡俗ノ理
財家ノ大ニ勸奨スル所ノモノナリ試ミニ看ヨ諸國ニ於テ其政
府ノ總彙章ノ即チ政体又ハ一廢ノ改革ノ後ニハ必ス大藏卿ハ理

財ノ景況ヲ具陳シ以テ錢貨ノ不足ヲ訴ヘ而シテ此不足ヲ補足
セシカ為メニ公債ヲ募ルヲ開陳セサルハナシ但シ此公債ハ
始メハ浮漂債ノ体ニシテ或ル期限マテニハ還償スヘキモノト
ナスモ常ニ終ニ母金依舊國債ノ態ニ變移スルモノナリ然リ而
シテ該大藏卿ハ斯ノ如ク前人ノ贈遺スル所ノ不足ヲ補足セシ
モ復タ更ニ不足ヲ生セシメ彼レニ継ク大藏卿ハ亦タ此不足ヲ
訴ヘテ公債ヲ募集ス以下亦タ皆斯ノ如クシテ漸ク國債ヲ増加
スルモノナリ實ニ慨歎スヘキ事ナラスヤ

- 第一 經濟學ノ進歩及ヒ國家ノ繁榮
- 第二 新稅ヲ設立スル事
- 第三 從來ノ租稅ニ就キ其徵收ノ割合ヲ増加スル事

第四 賦稅法ヲ改正シ收稅費ヲ減少シ惡弊特許脫稅ノ如
キヲ禁遏スル事

第五 稅額ヲ減少スル事
右ノ數件ニ就キ今左ニ一々之ヲ畧論セントス
夫レ國ハ平穩ニシテ其法律ハ人心ニ適合シ其自由公正及ヒ開
化ハ漸ク進歩シ其民業繁盛ナルハ人民ノ總入額ハ漸ク増加
シ隨フテ大藏ノ歲入モ亦タ増加スヘキナリ而シテ斯ノ如ク大
藏ノ歲入増加スルハ則チ臨時費ノ登起スルハ又稅則等ノ改
革ニ由テ一時歲入ノ減少サスルヲアルモ敢テ不足ヲ生スル
ナカルヘシ
人民ヲシテ新稅ノ設立ヲ許諾セルノ又ハ之レヲ賦課シテ著シ
キ弊害ノ生スルヲナカラシムルハ最モ至難ノ事業ニシテ假令
其政府ニ大権カアルモ容易ニ為スヲ得スト云フハ從來ノ

經驗ヲ以テ明証シ得ヘキナリ蓋シ新タニ一稅ヲ設立スルハ即チ人民ノ所有物及ヒ其入額ヲシテ復タ更ニ減少セシムルト一ナルヲ以テナリ其他又新稅ヲ設立セントスルモ亦タ曾テ租稅ヲ賦課セシメナク且ツ之ヲ賦課シテ實益ノ生スヘキ物件ヲ看出スハ甚タ難キ事ナリ試ニ諸國ノ稅目表ヲ看ヨ事トシテ稅ノ課セラレサルモノナク物トシテ租ノ非サルハナク譬ヘハハ羅馬政府ノ如ク人糞ニマテモ課稅セシニ至リシト云フヲ瞭知スヘシ

從來成立スル所ノ租稅ニ就キ其收入ノ割合ヲ増加スル事ハ是レ下タ甚タ難キコトニシテ夫ノ新稅ヲ設立スル時ノ困難ト相類頑スルモノナリ蓋シ各人ノ稅額ヲ増加スルハ即チ其所有物及ヒ其歲入ヲシテ減少セシムルト一般ナレバナリ是ヲ以テ人民ヲシテ此増稅ヲ許諾セシムルハ實ニ容易ノ事ニ非スレテ極々

ノ約束ヲ以テ能ク之レヲ慰撫スルニ非サレハ能ハス既ニ千八百四十八年佛國ニ於テ一面限リトシテ地稅ニ一フランクニ付キ百分ノ四十五ノ増稅ヲ加ヘ時ノ例ヲ以テ之ヲ引証スルコトヲ得シ又英國ニ於テロベルペール氏ノ舉行セシ稅額ノ減少及ヒ廢稅等人民ノ希望セル理財上ノ改革ヨリ生セシ政府ノ歲入ノ不足ヲ補足センカ為メニ暫時ノ各義ト特別ノ方法何ヲ以テ特別ノ方法ト言フ曰ク二千五百フランク以上ノ歲入ノミニ課スヘクシテ其以下ハ皆之ヲ免スヲ以テナリトヲ以テ歲入稅ヲ説立セシ時ノ例ヲ以テ亦タ之レヲ証徵シ得ヘキナリ其他此方法稅額ヲ增加ハ徵收スヘキ稅額ノ總計ヲ預カシメ確定シ得ヘキ配當稅ニテ後チ之レヲ各品即色及ヒ各人ニ配當スルモノヲ云ニ非サレハ之ヲ施行スル能ハサルモノナリ何トナレハ他ノ目錄稅ニ從ツテ徵收スルモノヲ云フ即チ間稅ニ於テハ

目錄稅

目錄稅
目錄稅ニ從ツテ徵收スルモノヲ云フ

目錄稅
目錄稅ニ從ツテ徵收スルモノヲ云フ

目錄稅
目錄稅ニ從ツテ徵收スルモノヲ云フ

概子皆其稅額ヲ増加スレハ其收入額ハ及ツテ減少シ又稅額ヲ減少シ又稅額ヲ減少スレハ其收入額ハ及ツテ増加スルモノナレハナリ

斯ノ如ク稅額ヲ減少シテ其收入額ヲ増加スルノ方法ハ近時ノ彙明ニシテ理財家中ニハ未タ之ヲ了知セサル者多シ然レ氏既ニ英國ニ於テハ「ヒュスキソン」氏及ヒ「ロベルベル」氏ノ之レヲ施行セシニ其功驗甚タ著明ナリキ

其他尙才雜費ヲモ償フ能ハサルカ如キ收入額ノ僅少ナル稅ハ之レヲ廢棄シ而シテ收入額ノ大ナルモノ、ミヲ保存シ以テ稅入額ヲ増加セシムルヲ得ヘシ

或ル物品ノ輸入ヲ禁遏スル為メノ重稅ヲ廢止シ之レニ代フルニ輕稅ヲ以テスレハ則シ密賣脫稅ハ自カ減少シテ直接及ヒ間接ニ課稅スヘキモノ、員數漸次増加スルヲ以テ稅額ノ入額モ

亦モ漸ク増加スヘナリ

佛國ニ於テ千七百八十九年ノ大變革ノ後ニ稅額ノ賦課法ヲシテ一層公平ナラシメシ「マリ」ニ其收入額ハ大ニ増加シタリキ今東洋諸國ニ於テ嘗テ稅額ヲ免カレ來リタル所ノ上等社會ノ人ヲシテ漸ク之レヲ負擔セシメ以テ其賦課法ヲ公平ナラシム處ニハ皆其收入額ノ増加セシ「恰」佛國ノ大變革ノ後ニ於ルカ如クナリキ

然レ稅額ヲ賦課シ之ヲ收入スル事ニ於テハ能ク之レヲ整頓シ之レヲ簡易ニシ之レヲ檢査シ其惡弊ヲ洗除セハ必ス其收入額ハ増加スヘキモノナリ故ニ昔ヨリ賢明ナル宰相ハ一人トシテ

此數事ヲ奉行セサル者ナシ
又貸貸^{政府}ニテ或ヒトニ若干ノ金額ヲ納メシメノ方法ヲ廢シ
之レニ代クルニ政府ノ直接ニ稅額ヲ收入スルノ方法ヲ以テセ

ハ嘗テ此小税法ニリ發生シ来リタル諸種ノ弊害ハ頓ニ消滅ス
ルカ故ニ復タ租税ノ入額増加スヘキナリ是ヲ以テ土耳其ノ新
帝アブデュルアデーヌカ漸次此貸貸ノ數ヲ減サシ竟イニ千八百
六十一年七月歐羅巴ノ例ヲ取リテ此貸貸ノ方法ヲ全ク廢止シ
而シテ夫ノ直接ニ收入スルノ方法ヲ採用スルヲ決定シタリ
蓋シ其結果ハ果シテ土國ノ歲入ヲ著シク増加スルニ至ルヘシ

第三章

近時英國ニ於テ舉行セシ理財及ヒ貿易上ノ改革

近時英國ニ於テ舉行セシ理財及ヒ貿易上ノ改革ハ予輩カ前章
ニ於テ既ニ陳述シ来リタル所ノモノ、通例トシテ之ヲ引証ス
ルヲ得ヘシ實ニ該國ノ此改革ヲ決行セシハ夫ノ著名ナル「アン
チー、コロン、ラブリ」ギエ殺物條例ヲ廢止セバノ盡カニ據ル蓋シ勅
シトセス此論黨ノ首領タルモノハ「スル中論黨ノ義」論黨ノ義盡カニ據ル蓋シ勅
シトセス

ルソシ「ウペフオクス」ミル子ルジブソシ「ホブリック」等ノ諸氏ニ
シテ大ニカヲ盡シテ自由貿易ノ説ヲ世ニ傳播シタリ此時ニ當
リ「ロベル、ペール」氏千八百四十二年ヨリ六年ニ至ル間英國ノ宰
相リノ理財及ヒ貿易上ノ著明ナル改革案ヲ編成シ而シテ之
レヲ議院ニ進呈シテ其舉行セシトテ大ニ主張セシニ終イニ議
院ニ於テ之ヲ許可シタリキ
「ロベル、ペール」氏ノ主張セシ此改革ハ千八百四十二年ヨリ着手
シ四十六年マテ陸續奉行シタリ其後同氏ニ繼ク宰相「ジョー、マ
ル氏及ヒ復タ彼レニ繼ク諸宰相ハ皆間斷ナク之レヲ奉行シタ
リキ抑ク此改革ノ結果タリシモノハ即チ諸業ノ振起、物價ノ低
下、物品支消額ト其流出額トノ増加、大歲ノ入額ノ増殖是レヤリ
是レヲ以テ英國政府ハ此改革ノ為メニ初メハ歲入ノ不足ヲ補
足スルヲ得後十歲入出ヲ平均セシムルヲ得而シテ終ニ著シク

歳入ヲ蠲ガシ得ルニ至リテリ其他政治上ニ於ケルモ亦々社會
上ニ於ケルモ是レカ為メニ生スル所ノ利益虧シトセズ予輩ハ
今左ニ此改革ノ條件ヲ掲載シテ後チ直チニ此利益ノ事ヲ論セ
ントス

此有名ナル改革ハ自由貿易黨カ豫メ其發生ヲ促シ置キタルモ
ノニシテ偶然ノ事業ニ非サルナリ此改革ノ條件ハ即チ左ノ如
シ

第一 歳入税ヲ設立スル事 但シ此税ハ從來ノ不足ト這

回ノ改革ニテ奉行スヘキ廢税或ハ減税ニ由テ發生
スル所ノ歳入ノ減少トヲ補足スルカ為ナリ

第二 數種ノ間税ヲ廢止シ又ハ減少スル事

第三 関税ヲ廢止シ又ハ減少スル事及ヒ自由貿易黨ノ極
メテ排撃スル所ノ穀物條例ヲ特ニ廢止スル事

第四 英國海軍ノ為メニ設ケタル特別ノ航海税ヲ廢止ス
ル事

第五 英國ノ物産及ヒ船舶ヲ保助スル為メニ其屬地ノ埠
知ニ於テ徵收スル特別ノ税ヲ廢止スル事今之レヲ

重言セハ屬地ノ束縛ヲ解ク事

第六 賤民ノ負擔スヘキ租税ヲ著シク減少シ而シテ曾テ

租税ノ一分ヲ免カレシ上等ノ人民ニ賦課セシメ以
テ課税ノ模様ヲ変更スル事 但シ此事タル此改革

ノ結果ト云フヘキナリ

這回ノ改革ニ就テ實ニ最モ意ヲ留ムヘキ所ハ即チ「ロベルペー
ル」氏ノ歳入税ヲ説立シ以テ富者五十萬人ニ更ニ課税セシテ関
税并ニ間税ヲ減ツシ以テ貧者ノ多ク支給スル所ノ支消物税ヲ
輕少ナラシメンシテ及ヒ公費ヲ負擔スルニ富者ト貧者トノ間

タニ曾テ生シ来リシ所ノ不公ヲ更ニ少シク減却セシメニ
リ千八百四十二年^{即チ此改革ニ}於テ英國ノ歲入總計ハ五千
二百萬磅ナリシカ其内地稅及ヒ家屋稅ハ富者ヨリ支給セル所
ノモノ僅カニ三百萬磅ニシテ貧者ノ支給セシ所ノモノ殆ント
四百萬磅ナリ残り四千五百萬磅ハ貧者ノ殊ニ支給スル所ノ間
稅ヨリ供シタリ然レモ現今ハ夫ノ地稅家屋稅ノ如キ直稅ヨリ
供スルモノ殆ント總入額ノ四分一ノ多キニ至レリ但シ此直稅
中ニハ印稅モ算入ス然レモ佛國ニ於テハ既ニ直稅ヨリ供スル
モノ其總入額ノ三分一ヲ過ク
抑、此改革ハ三方ニ之レカ影響ヲ及ホシタリ一ニ曰ク理財上
ノ影響ニ曰ク貿易及ヒ經濟上ノ影響三ニ曰ク政治及ヒ社會
上ノ影響即チ是レナリ何トシレハ此改革ニ由テ生セル所ノモ
ノハ唯納稅者ノ為メニ其稅額ノ大ヒニ減少セシ事ト官民共ニ

其入額ノ増加セシ事ト此二者ノミニアラス尚是レカ為メニ人
民ノ情態ハ大ニ改良シ以テ内亂暴挙ノ萌芽ハ自ラ消滅シ且カ
リムス黨ハ此改革以前ニ於テハ恰モ擾亂ヲ煽動スル者ノ如ク
見シモノモ亦自ラ止滅セシヲ以テナリ實ニ此改革後他諸
國ニ於テハ貿易上ニ大ナル^{激變ノ景況アリ}又酷シキ窮乏アリ而
シテ千八百四十八年政治上ノ大改革アリテ歐亞ノ諸國ハ概テ
頗ル動搖セシト雖モ獨リ英國ハ甚タ靜謐ニシテ且繁盛ナリ是
ヲ彼ノ改革ノ功績ト云フヘキノミ
又他ノ諸國ニ於テモ理財上ノ改革ヨリ官民共ニ大益ヲ蒙リシ
例勅シトセス
夫ノ著名ナル英國ノ理財上ノ改革ハ千八百六十年英佛二國ノ
間ニ通商條約ヲ締結セシニ因リテ尚陸續之レヲ舉行シタリ蓋
シ此條約ノ理財經濟道德政治ノ上ニ益アルヲ勝テ數フベカラ

第四章

理財上ノ改革ニ就キ能ク之レカ功ヲ成スヲ得ルノ機
會ヲ論ス

予輩ハ既ニ目今理財上ノ改革ハ如何ナル趣向ヲ以テ奉行スヘ
キヤ否ヲ問陳セルヲ以テ今又之レヲ奉行スルニ就テノ一般ノ
考説ヲ陳述セントス

抑ク此改革ハ能ク之レカ功ヲ成シ得ル為メニハ國家靜謐ノ時
ニ當リテ舉行スルニ非サレハ能ハサルモノナリ何トナレハ曾
テ之レヲ事實ニ徴スルニ國家常ニ平安ニシテ人民ハ能ク其業
ヲ勵ミテ繁昌ヲ致スノ時ニ非サレハ其成功ノ為メニ必要ニシ
テ且經濟上ニ希望セル所ノ情状ハ生セサルモノナレハナリ其
他此改革ニ因リテ税額ヲ減少セハ直チニ其收入額ハ増加スル

モノト思考スヘヤラス蓋シ減税ノ為メニ物價低下セシニ因リ
物品ノ消費額漸ク増加シ又隨ツテ其產出額倍殖シ而シテ納税
額モ亦タ増加スルニ至ルニハ多少ノ歳月ヲ経ルニ非サレハ能
ハヤルヲ以テナリ

夫ノロベルベール氏ノ企起シタル有名ナル改革ヲ舉行セシハ
即チ英國ノ平安繁昌ナル時ニアリト言フヲ得ヘシ他國ニ於テ
ハ佛國ノ如キハ皆不幸ニシテ全ク之レト相及セル時機ニ投シ
テ此改革ヲ奉行シ以テ平安繁昌ノ時ニ非サレハ此改革ノ好結
果ハ生セサルモノナリト云フ事ニ注意セシ者曾テナカリシナ
キ八百四十八年ノ騷亂前ニ於レルカ如ク平安繁昌ノ時ニ於テ
此改革ヲ實ニ施行スヘキ好機會アリシト雖モ是等ノ好機會ニ
ハ絶テ之レヲ舉行セザリシナリ佛國ニ於テ此改革ヲ實ニ施行
セシハ此騷亂ノ後ニシテ政治理財及ヒ諸業ノ上ニ一大困難ヲ

發生シ諸方トモニ人民ノ勉業ハ衰微シ物品ノ支消願ハ大ニ減
少セシ時ナリ是ニ由テ之レヲ觀レハ佛國ニ於テ之ヲ奉行セン
ト試ミシハハ昂キ爲スヘキ時ニ爲サスレテ爲スヘカラサル時
ニ爲セシモノト云ハサルヘカラス

予輩ハ今左ニ若シ政府ニテ好機會ニ投シテ理財上ノ改革ヲ舉
行スルコトヲ怠ルハ海子ニ如何ナル困難ニ遭遇スルヤ否ヤヲ
問陳セントス抑ク政府ノ以改革ヲ奉行セサルハ先ツ忽チ騷
乱ヲ發生シ而シテ後チ政府ノ已ムコトヲ得スレテ不良ノ方法ヲ
以テ之ヲ奉行セサルヲ得サルニ至リ又隨ツテ歳入ノ不足ハ益々
増加シ而シテ漸ク公債ヲ募集シテ竟ヒニ政府ノ瓦解スヘキ莫
大ノ負債ヲ造成セサルヲ得サルニ至ルヘキナリ
千八百六十年英佛兩國間ニ通商條約ヲ締盟セシ時ヨリ着手シ
タル關稅ノ改革ハ實ニ好機會ニ投シテ奉行シタルモノト謂フヘ

シ蓋シ當時頗ル平安ナリシカハ兩國共ニ必ス此改革ノ目的ヲ
充分ニ達シ得テ其國民ハ勿論全世界ノ人民ヲ合セテ大ニ經濟
政治及ヒ道德上ノ利益ヲ受クヘシト庶幾スルコトヲ得ルヲ以テ
ナリ其他千八百六十年白耳義ニ於テ奉行セシ其入府稅ノ改革
モ亦タ同ク稱讚セサルヘカラス此改革ハ實ニ諸國ノ模範ト成
ルヘキモノナリ

又理財上ノ改革ニ就キテ能ク之レカ功ヲ成スヲ得ル爲メノ他
ノ手段ハ即チ此改革ノ方法ヲシテ之レヲ奉行セサル前ニ豫メ
新聞紙カ或ハ公會ヲ以テ此事ヲ能ク衆人ニ知ラシメ置クコトナリ
然ラハ則チ世人ノ之レヲ是非フルニハ先ツ經濟學ヲ考究セサ
ルヘカラス是故ニ自ラ世人ハ經濟ノ真理ヲ一般ニ覺悟スルニ
至ルヘシ若シ此真理ヲ了知セサル時ハ施治者被治者モ共ニ奇
怪ノ謬說ヲ確信セルカ爲メニ此改革ヲ排斥シテ益々惡弊ヲ醸

成セシムルニ至ルヤ必然ナリ是ヲ以テ千八百五十八年ノ民撰
議院開院ノ時ニ第一世拿破崙ノ演述セシカ如ク實ニ良民ノ義
務ハ經濟ノ名説ヲシテ一般ニ傳播セシムルニアリ蓋シ是レ獨
リ理財上ノ為メノミナラス尚オ政治及ヒ道德上ノ為メナリ

第二十二篇

理財ノ宜キヲ得ル為メニ必要ナル事情ヲ論ス

第一章

此事情ノ詳説

夫レ理財ノ事ニ於ルヤ恰モ医術ニ於ケルカ如ク其困難ヲ匡救
スル種々ノ藥劑ヲ發明セシ人許多アリ但其人ノ之ヲ發明スル
ハ殊ニ困難ノ發セシ後チニアリ然レ氏尚オ医術ニ於テ病所ヲ
能ク全愈セシムルニハ種々ノ藥劑ヲ用ヰルヨリモ寧ロ養生法
ヲ行フニ若スト為スカ如ク理財ノ事ニ於ルモ亦タ同ク其困難
ヲ匡救スル為メニ種々ノ方法ヲ用ヰルヨリモ寧ロ經濟及ヒ行
政上ノ真正ナル根法ヲ実行シ以テ自然ノ道理ニ遵ヒ若シ之レ
ニ乖離スル時ハ之レニ復歸スルニ若カサルナリ
右自然ノ道理及ヒ根法ノ事ハ既ニ此書ノ初メニ於テ揭示セリ

抑く予輩カ既ニ論究セル種々ノ道理ニ據レハ理財ノ宜キヲ得ルカ為メニ必要ナル事情ハ昂チ租税ノ賦課法其収入法其用法及ヒ其改革ノ良善ナルトニアリ但シ此事ニ関スル諸論モ亦タ既ニ之ヲ陳述セリ然リト雖氏尚ホ良政平穩検査公示等ノ如キ政府ノ維持ニ要スルモノ及ヒ理財事務局ノ管理法ノ善良ナル事モ亦タ理財ノ宜キヲ得ルカ為メニ必要ナル事情タルヲ以テ今尤ニ之ヲ論セントス

第二章

良政検査公示及ヒ理財ノ真ノ秘訣

千八百三十年ノ革命後佛國ノ大蔵卿タリシ路易侯ノ言ヘルトアリ曰ク予ニ良政ヲ為サシムヘシ然レハ予ハ又汝ニ理財ノ宜キヲ行セシムヘシト此言ヤ實ニ其當ヲ得タルモノト云フヘシ今之レヲ詳説スレハ即チ一方ニ於テハ平安ヲ保持シテ深慮

以テ歳入ヲ使用セヨ他ノ一方ニ於テハ人民ノ勉業ヲ妨害スルナク又自由ノ分量ヲ減少スルナクシテ正理ト安寧トヲ保護スベシ然レハ予ハ人民ニ要求スル所ノ税額ヲシテ真ニ奉行シタル公務ニ相當スル價格ヲ越ヘサラシメ租税ノ入額ヲシテ公費ヲ補フニ足ラシメ次イテ理財上ノ改革ヲ奉行スルヲ得テ稍ク我カ國債ヲ償却スルトニ着手シ以テ理財ノ宜キヲ得ルニ至ルヘシト云フニ外ナラサルナリ此言ヤ予輩ノ此書ノ冒頭ヨリ陳述スル所ノモノト全ク符合セリ既ニ斯ノ如ク良政ハ理財ノ宜キヲ得ル為メニ必要ナルモノナレハ理財ノ宜キヲ得ルハ治國術中最モ至難ナル要點ノ一ナリ(曾テ「ゴルベル」氏ノ言シトアリ曰ク理財ノ事タル國家ノ名譽ニ関スル所ノ最モ重要ナルモノナリト)史乘ニ據リテ往昔ノ事跡ヲ熟考スルニ凡ソ内乱ノ發ルハ概

子皆祖統ノ事ト理財上ノ紛乱トニ胚胎セサルモノハ甚々稀レ
ナリ(第二篇ノ第二章第十篇ノ第二章及ヒ第二十一篇ノ第一章
ヲ見ルヘシ)是ヲ以テビレール氏言ヘルヲアリ曰ク我カ内乱ノ本
源ハ我カ内乱ノ本源ハ我理財上ノ傷口ニアリト此傷口ハ千七
百七十六年「マレゼルブ」氏ノ言ヒシカ如ク實ニ甚々恐ルヘキモ
ノナリ其言ニ曰ク理財ノ傷口ハ之レヲ治スヘキ良藥ナキモノ
ナリト

何ヲ以テ人民ノ理財上ノ事ニ付キ斯ノ如ク容易ニ感動スルト
云フヤ曰ク政府ニテ理財ノ亘キヲ得スレテ徒ラニ其歳入ヲ浪
費スルヲアラハ予輩ノ及復論悉セシ如ク其徒費タル物價ヲ騰
貴シ各自ノ歳入ヲ減少シ終ヒニ人民ヲシテ活路ニ苦シマシム
ルニ至ルモノナレハナリ

理財ノ宜キヲ得ルカ為メニ欲クヘカラサルモノハ即チ良政ノ

結果タル平母ナリ蓋シ彼我兩國ノ間又ハ国内ニ葛藤ノアルア
レハ國ノ中省スル能ハス又理財上ノ改革ヲ施行スル能ハス
サルヲ以テナリ實ニ外戦又ハ内乱ノアルハハ國費ト租税トハ
益々増加シ國債ト舊幣トハ亦々愈々播殖シ而シテ更ニ許多ノ
新弊ヲ發生シ終ヒニ公務ヲ管セル諸官府中ニ悉ク紛乱ヲ生ス
ルニ至ルヘキナリ曾テ日耳曼ノ一著述家ノ言ヘルアリ曰ク戦
争ハ財主ノ為メニハ收納ノ時ナリト今之レヲ詳説セハ戦争ノ
起ルヲアレハ乃チ政府國債ヲ募ルモノナレハ戦争ハ^ス投機者ヲ
シテ此國債ノ証書賣買ニ就キ大ニ得ル所アラシムルモノナリ
ト云フニアリ然リト雖氏戦争ハ(國ノ内外ニ係ルヲ問ハス)投機
者ノシテ斯ノ如ク利セシムルヲアリト雖氏其他ノ人民ニハ悉
ク諸物歛乏ト^イ寂^イ景況トヲ来シ而シテ其少シク持續スルニ於
テハ困窮ト零落トヲ来タサシムルモノナリ又之レヲ諸國ノ史

条ニ徴スルニ其例牧擧ニ違アラス是ヲ以テ一大習練者佛國王
路易第十四世ノ將ニ王位ヲ嗣カントスル其太子ニ言シテアリ
曰ク汝ハ平和ヲシテ大益ノ泉源ト見做シ以テ汝ノ隣國ト常ニ
能ク平和ヲ保ツベシ又戦争ヲシテ大害ノ泉源ト見做シ以テ能
ク戦争ヲ避クヘシ故ニ汝ハ常ニ汝ヲ防禦スル為メカ或ハ汝ノ
同盟者ヲ防禦スル為メニ非サレハ決シテ兵端ヲ開ク勿レ是
レ予カ切ニ汝ニ希望スル所ナリ然レ氏予ハ曾テ汝ニ今言ヒ示
ス所ノモノヲ為サ、リシハ實ニ予カ一生ト予カ施政中トニ就
テ最モ後悔スル所ナリ是ヲ以テ汝ニ必ス予カ行ヲ学フ勿レ
ト
斯ノ如ク戦争ヲ忌惡スル所ノ論說ニ就テハ又種々ノ議論ノ發
生スル也蓋シ勸カラス然レ氏此事ハ茲ニ論スヘキモノニ非
サレハ予輩ハ只此事ニ就キテ一言センノミ曰ク戦争ト平和

ト此二者ノ中ニテ良政ニ相通フ所ノモノハ即チ此平和ニアリ
其他國内外ニ関スル良政ノ事ニ就テハ此ニ論スヘキモノニ
非サルナリ
理財ノ直キヲ得ル為メニ必要ナルモノ、部類中ニ夫ノ良政ト
共ニ検査、公示ナルモノヲ挿入セラルヘカラス但シ此検査及ヒ
公示ハ良政ノ結果ノ如ク又之レヲ完全ナラシムモノ、如シ
大藏卿「マ」ギエ氏カ曾テ皇帝ニ上奏セシ其文ニ曰ク理財事務
行法ヲシテ最良ナラシムルモノハ多クハ検査ト公示ト此二者
ニアリ抑々検査ナルモノハ租稅ヲ收入シ之レヲ運輸シ之レヲ
使用スルニ皆其法令ニ適合シテ真正ノモノタル事ハ其責任ア
ル官吏ノ之レヲ保証シ又轉免スヘカラサル検査官ノ其官府ニ
於テ之レヲ検査シ又衆議院ニ於テ人民ノ代議者ノ確実ニ之ヲ
許諾スルニ非サレハ一錢ト雖氏納稅者ノ手ヨリ出サシメス又

夕彼ノ金庫ヨリ此金庫へ運輸セシメス又政府ノ債主ハ下附セ
シメサルカ為メナリ其他公示トハ税金ノ運輸ニ関スル定期計
表、各宰相ノ計表、検査委員ノ計算書、計議院ノ報告書及ヒ大蔵卿
ノ総計算書ヲ毎歳諸官府ニ於テ衆人ニ告示スルニアリテ理財
ノ為メニハ実ニ緊要ノモノナリト

千五百年代ニ一ノ劇論者アリテフロマントナル偽名ヲ以テ
理財秘訣ト題セル一書ヲ著ハセリ此書ノ第一ノ部分ニ於テハ
當時ニ行ハル、租税ノ強取及ヒ種々不正ノ事ヲ縷述シ而シテ
第二ノ部分ニ於テハ理財上ノ驚歎スヘキ紛乱、浪費、不注意、官財
竊盜、其他意外ノ妄行ヲ列叙シ以テ是等ノ惡弊ヲ洗除センコトヲ
極論セリ蓋シ此論者ノ言フ所ヲ摘撮セハ即チ理財ノ秘訣ハ夫
ノ公示、検査トノ二者ニアリト云フニ外ナラサルヘシ
右ノ検査及ヒ公示ハ第一ニハ共議政体第二ニハ出版自由ヨリ

由来スル所ノ結果ナリ蓋シ共議政体ニ於テハ納税者ノ代人ハ
租税ノ事ヲ討論談議シ且其使用ヲ検査スルヲ得又出版ノ自由
ナルハ各納税者ハ租税ノ事ヲ審査討論スルヲ得ヘキヲ以テ
ナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ獨裁政体ニ於テハ真ノ検査及ヒ公示
ハ成立スヘキモノニ非スト云フ得ヘシ是レ亦タ理財ノ宜キモ
ノニ非スト云フヲ得ヘシ是レ亦タ理財ノ宜キヲ得ルカ為メニ
良政ヲ施サ、ルヘカラサル所以ナリ

第三章
理財事務局及ヒ其管理法

理財事務局トハ然テ公財ヲ管理スル所ナリト思惟スルヲ得ヘ
シ之レヲ重言スレハ則チ國ノ歳入出ヲ管理スル所ト想像スル
ヲ得ヘシ然ラハ則チ然テ國務ハ一トシテ理財事務局ニ屬セサ
ルモノナカルヘキナリ

然リト雖氏尋常理財事務局トハ唯政令ノ諸歲入ヲ收入シ之ヲ
貯藏シ而シテ之レヲ使用スルノ權アル諸局ニ之レヲ分配スル
コトヲ主意トスル官署ヲ云フ予輩カ今左ニ論スル所ノ理財事務
局ハ昂々斯ノ如キ旨意ノモノヲ指スナリ
夫レ理財事務局ニハ其職掌ノ重要ナルニ隨テ其事務モ亦タ少
シク困難ナルモノナリ然レ氏敢テ他諸局ノ事務ヨリモ一層困
難ナル事アルニ非ス時トシテハ農工商ノ私立會社ノ事務ヨリ
モ大ニ簡略ニシテ且容易ナルコトアリ
是ヲ以テ理財事務局ヲ管理スル者ハ尋常ノ才能知識ト正直勉強
心トヲ有スルヲ以テ足レリトス是レ則チ曾テ凡智ノ人ニシテ
能ク理財事務局ノ最上地位ヲ占有シ得タリシ所以ナリ
然レ氏ハ理財官ニシテ經濟學ヲ講究スレハ乃チ自ラ租稅及ヒ
公費ノ結果ヲ計考シ國家ノ利不利ヲ辨明シ且一般ノ謬說ニ眩

惑セララル、コトナキヲ以テ大ヒニ卓越ノモノト成ルヲ得ヘシ(第
二篇ノ第三章ヲ見ルヘシ)

若シ夫レ理財官タル者自己ノ名ヲシテ後世ニ傳ヘシムルカ如
キ有益ノ改革ヲ奉行セント欲セハ亘シク經濟ノ道理ヲ熟知シ
加フルニ果斷ヲ以テ事ヲ行ヒ公益ト正理トヲ重ニシ及ヒ獨立
ノ氣象ヲ有セサルヘカラス
予輩ハ曾テ史乘ニ徵スルニ往々理財官ノ租稅ノ強取其使用法
ノ欺偽ウボトバシ氏ノ言ヲ以テセハ竊盜及ヒ種々ノ惡事ヲ行
ハシカ為メニ其才能ト知識トヲ用ヒ以テ該國ニ大害ヲ醸ス者
トナリシコトアリ但斯ノ如キ理財官ノ是等ノ惡事ヲ行ハントス
ルニハ或ハ國王ト相謀リ或ハ「プロマント」氏ノ言ヘル如ク種
々ノ詐謀ヲ以テ國王ヲ欺クモノアリ
凡ソ理財官ニテ人民ノ怨謗ヲ來タスコトナクシテ租稅額ヲ增加

シ巨大ノ費額ト官財用法ノ不良トヲ隱匿シ及ビ巧ニ算數ヲ
操殖シ以テ国王及ビ人民ヲ欺クトヲ為スニハ頗ル才智ニ富ム
非サレハ能ハサルモノナリ然リト雖トモ斯ノ如キ才智ハ決
シテ稱讚スヘキモノニ非ス實ニ奸才猾智ト謂フヘクシテ終ニ
國家ノ衰頹ヲ醸成スヘキモノナリ

史ヲ案スルニ斯ノ如キ惡性ノ理財官ニ及ビ真ニ稱讚スヘキ理
財官モ亦タ無シト言フ可ラス其内第一ハ「エリ」及ビ「ケルゴ」
ノ二氏ナリ蓋シ此二氏ハ理財官ノ上等地位ヲ占ムル者ノ為メ
ニハ實ニ模範トナルヘキ人ナリ之レニ継ク者ハ「ゴルウベル」氏
ナリ但同氏ハ其性質ニ於テハ右ノ二氏ニ一步ヲ譲ルルアルモ
其才能ニ至リテハ蓋シ優劣ナカルヘシ

理財事務局ノ管理法ハ敢テ困難ナル事ナキモノナリ故ニ尋常
ノ管轄法ヲ以テ規律ヲ適用シ諸事ヲ整頓シ之ヲ進捗シ之ヲ檢

査シ及ビ官吏ニ責任ヲ負ハシムルヲ得ヘシ抑ク理財事務局
ノ管理法ヲシテ其宜キヲ得セシムルニ於テハ其結果タル賦稅
法ハ善良ト成リ收稅費ハ減少シ税金ハ納稅者ノ手ヨリ大蔵ニ
又大蔵ヨリ俸給ヲ受ケル者及ビ政府ノ債主ニ速カニ到達スル
ニ至ルヘシ予輩ハ此事ニ就テハ既ニ前章ニ之レヲ論述シタリ
右ノ税金ノ運輸ハ佛國ノ如キハ終テ收稅官等ニ由テ之ヲ舉行
セリ然レハ英國ノ如キハ貯金預り局ノ如キ官署又ハ銀行ヲシ
テ之レヲ舉行セシム此方法ハ理財事務局ノ職掌ヲシテ簡易ナ
ラシムルモノナリ但シ其職掌ヲシテ最モ簡易ナラシムルモノ
ナリ但シ其職掌ヲシテ最モ簡易ナラシムルハ即チ其管理法ノ
宜キヲ得ルニアリ

理財事務局ハ其管理法ヲシテ最モ簡易ナラシメ且ハ其費ヲ要ス
ルヲナカラスメ又公示ト檢査トヲ容易ナラシムル方計ヲ以テ

之ヲ編成セザルヘカラス乃チ是レ衆人ヲシテ理財ノ事ヲ確實
即瞭ニ知ラシメ以テ萬民ヲ利スルカ為メナリ
往時「シェリ」氏ノ始メテ金錢ヲ管理スル官吏ヲシテ強ヒテ日々
ノ出納ヲ日記ニ詳細登錄セシメシヨリ佛國ニ於テハ理財ノ事
ハ大ニ確實明瞭ト成リタリ是ヨリ先キ尚オ計簿ヲ明瞭ナラシ
ムルカ為メノ種々ノ條規アリト雖氏夫ノ官吏ハ多分乏レヲ遵
奉セサリキ故ニ「シェリ」氏以前ニ在リテハ歲入出ノ金額及ヒ其
使用法ヲ了知スルハ實ニ容易ノ業ニアラサリシヲ以テ當時之
レヲ了知スル者ナカリシナリ然レ氏「シェリ」氏ノ後チニ復タ理
財上ノ紛乱ヲ發生セシモト、思ハル蓋シ「シェリ」氏ノ時代ニ
理財ノ監督官タル「マルキー」テ「ファイアー」氏ノ千六百二十六年衆議
院ニ於テ烈シク理財官ヲ誹謗セシ「アル」ヲ以テナリ其言ニ曰
ク理財官ハ譬ヘハ水面ヲ動カシ以テ之レヲ窺フ所ノ獵師ヲ欺

キ而シテ黒汁ヲ吐出シテ其跡ヲ晦マス術ヲ有スル偽賊魚ニ似
タルモノナリト

商賈ノ簿記法ヲ政府ノ公財出納ニ通用セシ以來理財事務局ノ
事業ハ大ニ簡便トナリ是レカ為メニ事務ハ進捗シ責任ヲ負ハ
シムベキ者ニハ判然之レヲ負ハシメ公財ヲ管理セル官吏ハ其
私ナキヲ政府ニモ人民ニモ証明スルカ為メニ互ヒニ容易ニ檢
査ヲ行フ「フ」ヲ得ルニ至リタリ

佛國ニ於テハ夫ノ商賈ノ簿記法ヲ政府ノ自カラ採用セシハ漸
ク千八百七年ニアリ予輩ノ考フル所ヲ以テセハ之レヲ政府ニ
採用セシメタルノ榮譽ヲ有スル者ハ「モリアン」候ニアリトス此
改革ノ第一ノ結果ハ従前ノ簿記法ニ由テ包匿サレタル許多ノ
不正ト不正ノ使用法トヲ現出セシニアリ

政府ノ理財事務ハ曾テ商賈ノ理財事務ニ據リテ大ニ進歩セ

リ方今モ尚才會社等ノ管理法ヲ模範ト為セリ蓋シ會社ノ如キハ私利ノ為メニ勸奨セラレ毎子ニ之レヲ改良セシメニ汲々タルモ政府ニ公益ノ為メニ勸奨セラル、フ自ラ會社ノ私利ニ於ケルカ如ク甚シカラサルヲ以テ又會社ノ如ク敏捷ナラス且ツ勉勵モ薄キモノナリ

第二十二篇

租税ハ國民ノ艱難ヲ釀成スル原因ト看做シ又此艱難ヲ治スル良藥ト看做シ又國家ヲシテ進歩セシムル手段ト看做ス事ヲ得ヘキヤ否ヲ論ス

予輩ハ租税ノ事ヲ論スル中ニ又公費ト公債トノ事ヲ併セテ論スル所以ハ蓋シ公費ハ即チ租税ノ使用ニ外ナラス公債ハ租税ヲ増加スルニ至ルモノナレハナリ

第一章

租税ハ國民ノ艱難ヲ釀成スル原因ト看做ス事予輩ハ此書ノ開卷ヨリ既ニ屢論述セシカ如ク租税ハ安寧正理各人ノ自由本國ノ獨立ヲ保護スルノ公務及ヒ人民各自ニ施行セルニ於テハ不便且不利ナル所業ヲ施行セシムル官府ヲ設置スルカ為メニ欲クヘカラサルモノニシテ且有益ノモノナリ

然リト雖氏租稅ハ本末各自ノ歲入ヲ減サシ而シテ又ニ民中多
クニ居ル貧者ノ賃銀ヲ減少スルモノナリ然リ而シテ賃銀減少
シルハ各々一層勤勞セサルヘカラス且生活ニ要スル物件ヲ
省略セサル可ラサルナリ

又租稅ハ素トヨリ物價ヲ騰貴セシムルモノニシテ又タ是レカ
為メニ賃銀ヲ低下シ及ビ物産ノ支消ト販賣トヲ減少スルモノ
ナリ抑々物産ノ支消減少スルハ又タ隨ツテ賃銀低下シ物價
騰貴シ物品ノ產出減少スヘシ更ラニ勤勞利益賃銀支消モ亦タ
隨テ減少スヘキナリ

租稅ハ自カラ各自ノ歲入ニ課セラルベキモノナルカ故ニ租稅
ハ即々各自ノ貯蓄シ得ヘキモノヲ徵收シ以テ財本ノ造成ヲ妨
礙スルモノナリ抑々財本タルモノハ人民ヲシテ富饒ナラシム
ルノ元素ナリ是ヲ以テ「ミセル」エ「氏」ハ財本ハ諸業ヲ興

起スル本根ナリト言ヒ又タ「ロ」氏ハ財本ハ勤勞ノ最大要用
物ナリ賃銀ノ第一源因タリト言ヘリ

然レニ租稅ハ其額輕少ニシテ且其設立法、收入法、賦課法、ノ宜キ
ヲ得而シテ安寧ヲ保全スル第一ノ公務及ビ第二ノ公務ヨリ生
スル所ノ公益ニ因テ償ハル、ハ右ニ論スル種々ノ結果ハ其
現出スル極メテ僅少ナルヘシ若シ之レニ及シテ租額ハ此公務
ニ相當セス或ハ此公務ハ其施行ノ宜キヲ得ス又租稅ノ設立法
收入法賦課法ノ不良ナルハ右ノ結果ハ其現出スルヤ愈々重
大ナルヘシ

右ノ如ク租額ハ公務ニ相當セス又租稅設立法、收入法、賦課法等
宜キヲ得サルハ「往昔」ニ於テハ「梶子」皆斯ノ如ク方今ト雖氏
「斯」ノ如シ租稅ハ諸業ノ衰頹ヲ醸成シ、融通ヲ壅塞シ、物産販賣
ノ額ヲ減少シ、奸計ヲ以テスル所業ヲ胚胎シ有益ナル所産ノ支

消ヲ障碍シ有害ナル物産ノ支消ヲ興起シ人民ノ勤勞、實銀、健康、道徳ヲ妨害スルモノナリ
租税ハ其使用即チ公費上ニ就テ見ル時ハ屢ク無益或ハ有害ノ費用トハ即チ戰爭、不急ノ土木、裝飾、賑恤等ノ費用ヲ云フ又甚タ不公ナル公務或ハ公業ノ費用ニモ亦タ之ヲ供スルヲ勸シトセス然ルモハ又財本ト勤勞トノ希望スヘカラサル移轉諸業ノ盛衰、貨銀ノ昂低及ヒ人民ノ艱難ト不徳トハ自ラ生スヘキナリ
其他尚種々ノ事情ヨリ不徳ノ生スルヲアリ其事情トハ即チ重税ノ為メニ密賣詐偽ノ行ハル、事租税ノ不良ノ使用、此不良ノ使用ヨリ生スル所ノ隱謀、惡行等是レナリ
右ニ論スル所ヲ以テ見ルモハ若シ租税ノ或ル度ヲ起ヘ且之レカ償ヒト成ルヘキ公益ノ生セサルニ於テハ(方今最モ文明ノ国

ト雖モ尚斯ノ如シ)即チ租税ハ有形無形ノ艱難ヲ醸成スル原因トナルナリ實ニ租税ハ往昔ニ於テハ無教ノ災害ヲ醸成シタリ方今ニ於テモ尚チ大害ヲ醸成スヘシ
羅馬帝國ノ衰敗ヲ醸成セシ一原因ハ專リニ租税ヲ徵收セシニアリト云フハ予輩既ニ之ヲ闡陳シマリ(第十四篇ノ第一章ヲ見ルヘシ)斯ノ如ク專リニ租税ヲ徵收スルヲ他ノ國ニ於テモ亦タ其衰敗ノ一原因ト成リシヲ勸シトセス嘗テ「マールキエロク」氏言ヘルヲアリ曰ク西班牙ノ衰敗ハ概シ「モール」人ヲ追放セシト其國民ノ米國ヘ移住セシトニ基セリ然リト雖モ若シ其政治ハ曾テ壓制ナラス又其商工業ノ自由ハ之レヲ妨害セス又租税ハ其額重大ナラス而シテ良法ヲ以テ之ヲ收入セシナラハ夫「モール」人ノ追放ヨリ發生シタル衰微ハ蓋シ忽チ之ヲ回復スルニ至リシナルヘシ又夫ノ米國ヘノ移住ハ恰モ英國ニ於ケル

如ク西班牙ニテモ亦著シキ影響ハナカルヘキナリ実ニ千五百
二年ニ設立シタル宗教查察所及ビ印刷品検査局ハ税額ノ重大
ナルト其收入法ノ不良ナルト共ニ西班牙ノ方今ノ衰敗ヲ
醸成セシ真ノ原因タリト

又今左ニ重税ノ大害ヲ表出スル論者ノ言ヲサシク掲載セント
ス
殊ニ租税ヲ納ムヘキ人ハ税額ノ増重スルニ随フテ倍々之ヲ免
カレントニ汲カトシテ焦心シ而シテ其或ビハ僅少ノ金錢ヲ投
シテ貴族ノ特権ヲ買ヒ或ビハ国乱ノ間士官トナリシ故ヲ以テ
振リニ之レヲ收奪シテ権カト暴威トヲ以テ之ヲ占有セリ是ヲ
以テ租税ヲ納ムル者ハ其困苦ハ一層多キヲ加ヘ而シテ終ヒニ
全ク破産スルニ至リタリ(第四世アシリー及ビ「シユリー」ノ合編書
中ヨリ抄録ス)

蓋シ卿邑ノ衰微ヲ醸成スル第一ノ原因ハ各自耕作ヲ怠ルトニ
アリ而シテ斯ノ如ク耕作ヲ怠ルトハ租税徴收法ノ不良ナルヨ
リ發生スルハ言ヲ俟タスシテ昭々タリ(「ゴボ」パシ氏ノ「シーム
ロアヤール」ト題スル書中ヨリ抄録ス)

又往時同氏ハ佛國ヲ巡行シテ左ノ如ク言ハリ曰ク千六百年代
ノ末ニハ佛國人民ノ十分一ハ乞児トナリ十分ノ五ハ殆ント以
情態ニ近カシ而シテ十分ノミハ苦辛シテ生命ヲ保ツノミト
「アダムスミツ」氏ノ何処ニカ言シ「ア」リ曰ク堪ヘ難キ租税ハ譬
ヘハ人身ノ健康ヲ害スル気候ノ如ク或ハ天災ノ如クニ感觸ス
ルモノナリト

是ニ由テ之レヲ觀レハ租税ハ到底多少人民ノ艱難ト疲弊トヲ
醸成スル原因タリ然レ氏人或ハ之レニ答ヘテ云ハン然ラハ則
チ英國ノ如キハ國債利子等ノ為メニ著シク租税ノ増加セシカ

故ニ大ニ疲弊ヲ極ムヘキ道理ナリト雖トモ決シテ然ラズ及ツ
テ繁栄ヲ致シタリト予輩ハ又之レニ答ヘテ云ハシ英國ニハ重
税ノ影響ノ著シク現出セサリシ所以ノモノハ其人民ハ發明心
ト勉強心トニ因テ重税ヨリ發生スル所ノ障碍ヲ破却セシヲ以
テ以障碍及ヒ保護税(此税ノ英國ニ害ヲ加ヘシヲ鮮少ナラス又
之ヲ學ヒシ他ノ諸國ニ於テモ亦皆然リ)等ヨリ胚胎スル所ノ
障碍アルニ拘ハラス其生財事業ハ益々進歩シ是カ為メニ有形
無形ノ富ハ愈々増殖セシニ根基スルモノナリ

第二章

租税ノ改革ハ國民ノ艱難ヲ治スル良藥ト思考スル
ヲ得ヘキヲ論ス

夫レ租税ハ予輩カ既ニ開陳セシ如ク若シ其額重大ナルカ或ハ
其設立法等不良ナル時ハ忽チ國民ノ艱難ヲ釀成スヘキモノナ

ハ斯ノ如ク租税ノ事ニ就テ其宜キヲ得サル國ニ於テハ乃チ其
徵收法及ヒ其使用法ヲ改正レ之ヲ重言セハ其賦課法ヲ公平ニ
シ税額ヲ減シシ尚又之レヲ重言セハ公費中殊ニ無益ノ公費ヲ
省減シテ以テ此艱難ヲ匡救シ得ヘキハ必然タリ(第二十篇ニ於
テ理財上ノ改革ニ就テ論究セシモノヲ見ルヘシ)
然テ住民中ヨリ毎歲徵收スル所ノ税金ヲ無益ノ用ニ供シ例ヘ
ハ無益ノ集會場及ヒ記念標ヲ建築スルヲ又ハ平世ニ當リテカ
トステルリトトニ於テ勝利ヲ得シ兵士ノ員數ヨリモ一層夥多
ノ兵士ヲ備ヘ置ク等ノ為メニ要スルカ如キ費用ニ供スルハ
則チ租税ハ各自ノ堪ヘ難キ負荷物ト成リテ國家ノ疲弊ヲ醸成
シ而シテ之レカ償ヒト成ルヘキ公益ハ毫モ現出スルヲナシ
右ハ第三世拿破崙ノ「テジデーナボレ」ニエントト題セル書中
ヨリ抄録ス)

賤民ノ租税ヲ輕クセントスルノ方法ヲ索ムルニハ會計豫算簿
ニ非サレハ能ハサルモノナリ税額ヲ減少スルニハ公費ヲ減少
スルニ非サレハ能ハスト云義ナ
リ故ニ之ヲ他ニ索メントスルハ昂キ虚考ト謂フヘキノミ
上ニ同シ

今後理財上ノ大綱ヲシテ賤民ノ租税ヲ輕クスル事ト云フ一點
ニ歸セシメサルヘカラス第三世拿破崙ノ瑞士政治及兵制論ト
題セラル書中ヨリ抄録ス

蓋シ理財ノ改革ハ一大緊要ノモノタルハ言ヲ俟タスシテ明瞭
ナルヘシ何トナレハ此改革ヨリ生スル所ノ減税ハ一方ニ於テ
ハ各自ノ歳入ヲ増加シ、間接ニ貨銀ヲ騰貴シ、物品ノ支消ヲ増加
シ他ノ一方ニ於テハ財本ヲ増殖シ、物産ヲ興起シ、隨ツテ直接ニ
貨銀ヲ騰貴シ、終テ衰微ヲ来タスヘキ事情ニ全ク相及セル事情
ヲ生セシムルモノナレハナリ

賤民ノ租税ヲ輕クスルノ計策ハ殊ニ公費ヲ減少スレニアリト
云フ事ハ蓋シ未タ予輩カ所論タルヲ明言セサリシナルヘシ實
ニ莫大ナル公費及ヒ租税ハ不幸ニシテ唯賤民ノ疲弊ヲ醸成ス
ル一原因ト成ルモノニ非サルナリ理財上ノ改革ニ就テハ第二
十篇ニ論スルモノヲ見ルヘシ

第三章

租税ハ國家ノ進歩ヲ補助スル器械ト思考スルヲ得
ヘキハ唯或ル時ノミニ非サレハ能ハサルヲ事ヲ論
ス

租税ハ國家ノ進歩ヲ補助スル手段トシ又ハ國民ノ艱難ヲ治
ル良藥ト見做ス者徃々之レアリ然レ氏全ク是レ租税ノ性質ト
政府ノ真誠ノ職掌トニ就キテ誤解スル所アルニ根基セリ
或ヒト言ヘルヲアリ曰ク租税ハ恰モ諸業ノ獎勵者ノ如キモノ

ナリ何トナレハ各自之ヲ納ムルニハ已ムヲ得ス勉業セサル
ヘカラサルカ故ナリト予輩ハ曩キニ之レカ答辯ヲ為シメタリ
(第四篇ノ第三章ヲ見ルヘシ)

又或ハ言ハシ租税ハ政府ヲシテ安寧ノ保護及ヒ其他ノ所業
施行スルヲ得セシムルモノナリ然リ而シテ此安寧ハ社會ヲ保
持シ及ヒ之レヲ進歩セシムル為メニハ欲クヘカラサルモノナ
ルカ故ニ租税ハ即チ社會ノ進歩ヲ補助スル器械タリト
此謬説ニハ種々高尚ノ論ヲ作為シテ以テ之レヲ辨駁スル者一
ニシテ是ラス然レ氏到底經濟學ノ明瞭ニ論決スルモノ即チ租
税ヲシテ設立法及ヒ賦課法ヲ善良ナラシメ併セテ其額ヲ輕ク
ナラシメサルヘカラスト云フニ過キサルナリ租税ハ政府ニ財
本ヲ得セシムルモノニシテ政府ハ之レニ因テ他ノ模範トナル
ヘキ製造所ヲ建設シ或ハ賞金幫助金等ヲ附與シテ以テ諸業ヲ

獎勵シ又銀行等ヲ設立シテ資金ヲ貸與シ又盛シニ公業ヲ興シ
諸府ヲ裝飾シ以テ農工商ノ諸業及ヒ美術ヲ繁盛ナラシムルモ
ノナリトハ世人ノ一般ニ謂フ所ナリ

右ノ誤解ヨリシテ又更ニ租税ハ諸放銀中ニテ最モ利害多キモ
ノナリ或ハ租税ハ納税者ニ再ヒ歸スルモノナリト云フカ如キ
種々ノ謬説ヲ胚胎セリ實ニ右ノ誤解ヨリ醸生スル所ノ經濟理
財道德及ヒ政治上ニ関セル謬説ヲ悉ク揭示セシニハ蓋シ別ニ
一卷ヲ要スヘシ予輩ハ既ニ詳細此謬説ヲ辨駁セシヲ以テ今茲
ニハ僅カニ之レニ関セル一二ノ考説ヲ吐露センノミ讀者若シ
之レヲ知ラント欲セハ此書ノ他方ト予輩ノ經濟論トニ注眼

予輩ノ今先ツ言ハント欲スル所ハ即チ左ノ如シ夫レ經濟ノ真
理ト從來ノ經驗トニ據レハ然テ政府ハ右ノ如ク人民ノ諸業ニ

テ干預スルニ於テハ之レヲ盛ニナラシムルヨリモ及マテ之レ
ヲ妨クルニ至リ又政府ハ素ヨリ物産^{新機}、貸與、支消ノ事ニ於テ
之ヲ指揮スヘキモノニ非ス又政府ハ人民ノ諸業ニ干預スルモ
左ノ如キ事業ヲ施行スルカ為メニ非サレハ決シテ之レヲ真
ノモノトシ且有益無害ノモノト做ス可ラサルモノナリ第一社
會ノ為メニハ實ニ必要ノ所業ト雖モ人民ノ未タ一般ニ之レヲ
明日セサルノ故ヲ以テスルカ或ハ之レヲ執行スルモ相當ノ利
潤ナシト信認スルノ故ヲ以テ人民ノ自ラ執行スルハ期シテ待
ツヘキニ非スト云フカ如キ所業依令ハ道路ノ開設修繕等ヲ執
行スル事第二私益ノ公益ヲ害スルヲ防止スル事第三公費ヲ補
足スルニ必要ナル租稅ヲ徵收スル事即チ是レナリ
凡ソ政府ノ農工商ノ諸業ヲレテ盛ニナラシムルヲ得ヘキ方法
ハ唯之レヲ自由ナラシムルニアリ故ニ政府ノ之ヲ補助スル

ニハ殊ニ之レニ干預シ之レヲ保護スルヲ以テセ^ス（政府ノ殊
ニ施行スル保護ハ及テ毎子ニ之レヲ妨害スルニ至ルモノナリ）
只社會ノ安寧、正理、財産、順序、自由ヲ保全シ惡弊束縛ヲ除却シ、經
濟ノ道ニ合フタル方法ヲ以テ其職務ヲ尽シ、稅額ヲ減少シ、賦稅
法ヲ改正スルヲ以テセサル可ラス
租稅ハ社會ノ進歩ヲ幫助スルモノナリト云フヲ得ヘキハ唯政
府ノ斯ノ如ク為ス時ニアルノミ（租稅ノ結果ニ就キ第九篇ノ第
三章ニ論セシモノ若シ租稅及ヒ公債ノ使用法ニ就テ第十九篇
ニ講セシモノヲ見ルヘシ）
ホールコーク、氏ノ「ルソール、エ、ラ、バンク」ト題セル書ニ言ヘル
アリ曰ク人民ハ之レニ與フルヲヨリモ指イテ問ハサルヲニ因
ツテハ多ク富ムモノナリ又之レニ與ヘサルヨリモ奪フヲニ因
テハ多ク貧スルモノナリト

第四章

租税ハ概テ国民ノ艱難ヲ匡救スル手段ト成ルモノ
ニ非サルヲ論ス

人或ハ言ハシ租税ハ政府ヲシテ貧院及ヒ其他ノ賑恤方法ニ同
ツテ貧民ヲ救助スルヲ得ヘカラシムルモノナレハ即チ租税ト
國民ノ艱難ヲ匡救スル手段ト成ルニアラスヤト
予輩ハ之レニ應センニハ無情ノ言ヲ以テマス只左ノ言ヲ以テ
之レニ應セントス抑ク此賑恤ハ甚タ限リアルモノニシテ厚ク
之ヲ施行スヘカラサルモノナリ若シ夫レ之レヲ大ヒニ施行シ
テ其度ヲ失スルハ及ツテ貧民ノ艱難ハ増加シ而シテ遂ヒニ
社會ノ滅亡ヲ来タスニ至ルヘシ
誠ニ思ヘ若シ政府ハ充分ノ財本ヲ有スト假想スルモ貧院ヲ設
立スルカ或ハ貸銀ノ増補金ヲ與フルヲ以テスルニ非サレハ

他ニ直接ノ賑恤ヲ施行スルノ手段ナキモノナリ抑ク政府ハ概
テ貧院ハ之レヲ設立スルヲ得ヘシト雖モ貸銀ノ増補金ヲ與フ
ルニハ更ラニ租税ヲ増加スルニ非サレハ能ハサルヘシ然リ而
シテ凡ソ租税ハ貧者ヨリ其強羊ヲ支給セルモノナリト云フ
ハ予輩既ニ之レヲ明証シタリ
夫レ政府ノ其財貨ヲ或ヒトニ給與スルヤ各人ノ之ヲ或ヒトニ
給與スルカ如クニ非サルナリ蓋シ政府ノ之レヲ給與スルニハ
其全民ノ財貨ヲ以テスルニアレハナリ故ニ之レヲ給與スルニ
ハ貧富ヲ問ハス其全民ヨリ納メシムル所ノ租税ヲ設立セサル
ヘカラス然リ而シテ全民中貧家ハ最モ多キニ居ルカ故ニ政府
ニテ税金ヲ或ル貧民ニ給スルハ即チ甲ノ貧民ニ取リテ乙ノ貧
民ニ與フルモノト謂ハサルヘカラス是レ實ニ不正不道理ノ事
ナラスヤ

右ハケエ此氏ノ賑恤論ト題スル書中ヨリ抄録ス

凡ソ賑恤タルモノハ若シ政府ニテ之レヲ施行スルニ於テハ貧民ノ艱難ヲ救済シ或ハ之レヲ減サスルヨリモ及ツテ一層之レヲ甚シアラシムルモノナリ蓋シ道義上ノ人情、經濟上ノ真論、此從來ノ經驗ニ據レハ終テ賑恤ノ行為ハ其結果タル常ニ多少ノ道義上ノ進歩、獨立ノ氣象ヲ妨害シ、安作、不徳、怠慢、ヲ胚胎シ而シテ絶ヘス一般ノ貧寒ヲ醸成スルニ至ルヘシト云フヲ明証スルヲ得ヘキナリ(此賑恤ノ事ニ関シテハ予輩ノ人民ノ主義ト題セル書ニ就テ見ルヘシ)

貧民ノ艱難ヲ救済スルノ手段ハ到底租税ヲ減少スルカ或ハ其設立法ヲ改正スルカ或ハ經濟ノ道理ニ合フタル真正ノ方法ヲ以テ公務ヲ施行シ以テ人民ノ負擔スル所ノモノヲ輕クスルコトニアリ斯ノ如キ手段ハ實ニ經濟ノ道理ニ合フタルモノニシテ

賢明ノ仁惠法ト謂フヘキノミ

然リト雖モ人若シ貧民ノ艱難ヲ救済スルノ手段ハ政府ノ人民ノ諸業ニ干預シテ之レヲ指揮シ之レニ規則ヲ設ケ之レヲ奨励シ之レヲ補助スルコト巨大ノ公費ヲ興シテ租税(租税ハ諸放銀中ニテ最モ利益多キモノニシテ且ク貧民ノ手ニ再ヒ帰スルモノナリト安信シテ)ヲ増加シ、賑恤ノ道ヲ盛行シ、貧民ノ支給スヘキ租税ヲ設立スルコトニアルモノガリト妄リニ思想スル片ハ是レカ為メニ久シク薰染セシ種々ノ迷途ニ陥リ遂ニ公費、行政上ノ惡弊、各自ノ負擔スル租税ヲ増加スルニ至ルヘキハ必然ナリ

是ヲ以テ國民ノ艱難ヲ救済スル真正ノ手段ハ租税ヲ改正シテ以テ之レヲ輕クスルコト為セハ即チ夫ノ租税ヲ増加シ又、公債(公債ハ畢竟租税ニ外ナラサルモノナリ)ヲ募集シテ國家ノ

進歩ヲ補助シ國民ノ艱難ヲ救濟セントスルハ理論ニ於テ惑ヘ
ルノ甚シキモノト云フヘク且實際ニ於テモ患害アルモノト云
ハサルヘカラス

